

創立10周年
200試合達成記念



BERMUDAS

バミューダズ球団誌第2号

1987



THE BASEBALL
BERMUDAS

10周年/200試合達成記念

目次

バミューダズの顔	2	ハイライト写真集
「新人類」時代の「バミューダズ魂」	4	監督 塩瀬正明
表彰選手一覧	7	(1976年～1986年)
遊びに手を抜かない、バミューダズ10年史	8	
200試合への歩み	10	(1983年～1986年)
名球会規約・会員・候補	18	
技術論	19	助監督 藤本和彦
バミューダズ戦士より、ひとこと	24	
海外赴任メンバーからの、たより	27	前主将 建部英敏
バミューダズチームを祝して	28	エーコンズ監督 奥村明雄
選手紹介	29	
ファンクラブ紹介	35	
各年度個人記録	36	(1983年～1986年)
個人総合成績	40	(1976年～1986年)
チーム総合成績	42	(1976年～1986年)

バニユードズの顔

第四回佐久合宿 (83年10月)



オーシャン・リーグ
初優勝
(83年11月)



第三回スキー・ツアー
(86年1月 石打)



第二回スキー・ツアー (85年2月 白樺湖)

オーシャンリーグ

2度目の優勝
(85年10月)



第五回テニス・ツアー
(86年6月 軽井沢)

「新人類」時代の「バミューダズ魂」

—— 創立10周年、200試合達成を記念して ——

監督 塩瀬正明

1976年のチーム創設から7年目の1982年に、わがバミューダズは100試合を達成した。それを記念してシーズン・オフの1983年3月に最初の本『BERMUDAS』を自費出版した。

あれから4年足らずで、当時、次の目標としていた「200試合」、「100勝」のいずれをも達成することが出来た。全く早いペースである。わがチームの創立の精神からすれば「100勝」よりも「200試合」の達成により大きな意義を見出すべきであろう。

我々は草野球界のレベル・アップのために先頭に立って頑張っているという自負を持っている。この使命感ともいうべき「カミ」が第三者から見ても、それなりの実績に裏付けされているものかどうか気になるところだ。そうした自己反省の意味も込めて、ここに二冊目の本を出版することにした。チーム関係者ばかりでなく我々と同様に草野球について熱狂的な情熱を傾ける全ての仲間へ献げる本である。

チーム一冊目の本『BERMUDAS』で私は「バミューダズの諸君へ」と題した巻頭文を書き、「バミューダズ魂」について論じた。その本を読んでいない読者のために再度「バミューダズ魂」とはどのようなものかをご紹介したい。

「バミューダズ魂」とは「精神野球」である。

燃えるような闘魂、ひたむきなプレーの一投一打、兄弟愛ともいうべきチームナインとの心の交流、こういうものを指して「バミューダズ魂」と呼んだ。その理由として、我々の野球は十代の若者のそれだけでなく、二十代、三十代、四十代の草野球であることを挙げた。すなわち肉体の衰えをカバーできるものが精神力である。その精神力を磨くために「技術」の向上が不可欠である。

ここで「技術」というのは、単に打撃や守備、投送球、走塁の技術だけを意味しない。プレイン・ワークも含まれる。プロ野球でも二十歳前後の選手よりも三十代の選手の方が活躍できるのもそのためである。いろんな場面に遭遇してきた体験を肥しにして、冷静な判断と予知能力が育まれてくる。また、試合の進行状況から、その場面で次に自分がやるべきこと、期待されていることは何かを適確に読みとることもできる。

この他、草野球では選手と球団経営が分業化されていないので、チーム運営に積極的に協力することが大切である。グラウンド外でのナインとの連携、リーダーシップの濃度が、グラウンドでの勝敗を決するとまで言っても過言ではない。わがバミューダズでは、試合毎の事前の出欠とり、事後の新聞の配付が日常業務化しているが、その精力たるや大へんなものである。

勿論、こうしたことだけではない。野球のための勉強会やミーティングは機会あるごとに設けている。春の開幕前の沼津合宿、秋の佐久合宿がその主なものである。昼間の練習では、普段できない連携プレー、中継のフォーメーション、牽制、走塁、フリー・バッティング、新しい守備位置への挑戦といったことをする。夜には、ルールの解説や技術についての講習を行っている。

こうした努力の源泉は、「バミューダズ」への偏愛ともいえるべき愛着心である。ユニホームを着る時に覚える身震いの興奮は、経験した者でないと理解できないものだ。バミューダズへの愛情はグラウンドだけでなく、試合後の会食の場でも、職場でも、酒の席でも熱狂的に語られるものである。語る者の眼の輝きは、青春そのものである。今にも涙を流さんばかりに若い血潮が鳥肌を立てさせる。この感動を新しいメンバーと共に体験することの積み重ねにより、伝統が引き継がれてきた。

以上述べてきたような「おじさんの青春＝草野球」は時代錯誤かなと自信が揺らぐ時もあった。100試合から200試合に至る期間は「新人類」と呼ばれる世代がメンバーに加わってきた時でもある。チーム創設から100試合までのメンバーは「旧人類」と呼ばれる世代が中心だった。「旧人類」の「バミューダズ魂」が「新人類」にも通用するのか、受け入れられるものかどうか危惧もしたが、そうした心配は無用だった。「新人類」も青春をぶつける目標を探していたのだ。

近年、モノは巷に満ちあふれた。食欲、性欲が手軽に充足されるようになった。そうすると野球というスポーツは古くさく、オジクさい、ダサイ遊びに見えてくる。第一、若い女の子が

近寄らない。9人集らないとゲームが出来ない。相手チームが見つからないと遊べない。グラウンドがとれないと試合が出来ない。更に天候任せであって、2時間のゲームのために往復で半日はつぶれる。これらがテニスやスキー、マリンスポーツと大いに違うところだ。ところが、そうしたスポーツや遊びでは見出せないものが、心の完全燃焼であり、青春の爆発、仲間との連帯感である。そこに、わがバミューダズの実存意義がある。大風呂敷を掲げた言い方を許してもらえたら、社会的意義があるとさえ言える。

幸いにして、最近はグラウンドにも若い女性ファンが常時、応援に来てくれるようになった。選手一同、奮い立たずにいられなくなる。何よりの励ましである。これも、ここ数年「ファン感謝デー」と称して、初夏の軽井沢でのテニス、冬のスキーを通じて、若い女性ファンとの交流に積極的に心掛けた成果でもある。また年末には「ドラフト会議」という納会がある。この場も、単にチーム内の会合に終らせず、一年間を通じて応援してくれたファンの方々への感謝の意を表わす場にもしている。名前通り、翌年よりチームに入団してくれる新人勧誘の場ともなっている。

創部10周年。創設時の選手は2,3名しかいなくなってしまった。

仕事の都合で海外や地方に転勤になったり、田舎に戻って家業を継ぐことになったりして、試合に参加できなくなった者も出てきた。しかし、嬉しいことに、海外勤務から帰国するやチームに復帰し、再び活躍を見せてくれる選手も数多くいる。佐久合宿やオーシャン・リーグ決勝戦に地方から駆けつけてくれた者もいた。

ソニーを辞めても「バミューダズ」だけは辞めないでいてくれる者も多い。チームから離れ難いために、転職をためらうものさえる有様だ。こうした選手たちがチームや後輩を力強く引っばって行ってくれる。名実ともに職場を越えたクラブチームに育った。

また、家庭を持ち子供が出来たりすると、グラウンドは遠くなりがちだ。野球が好きでバミューダズで、もっとプレーしたくとも家族への責任の都合上、なかなか参加できない選手も多い。それを乗り越えてバミューダズで燃えるプレーが出来るのは、本人の意欲もさることながら家族、とくに妻の理解と協力が不可欠である。そう思うと私自身、バミューダズに係わる人々への責任を感じると同時にやりがいを感じる。グラウンドで無心無欲で闘争心をぶつけることが、家族や、チームを去った者へのせめてもの恩返しと考えては思いあがりだろうか。

流転10年。バミューダズに人は集まり、そして世界に散ってゆく。参加した者たちにとって「バミューダズ」は心の故郷として確実に根をおろし、夢はふくらんでゆく。先に「新人類」といったが、バ軍の20代前半の「新人類」をよく調べてみると地方出身者が多い。その意味で本当の「新人類」と呼ばれる大都会出身の若者にも毎年毎年入団してきて欲しい。彼らが、「バミューダズ魂」を創りあげていってくれることを願わざるを得ない。わがチームの「新人類」諸君やライバル・チームが「旧人類」の「オジン野球」を乗り越えて新しい展望を切り拓いてくれることを祈念する。次の目標は300試合、20周年だ。来春より模様替えする新しいユニホームで大暴れしようではないか！

バミューダズ万歳！（1986年11月3日）

〔附記〕

こうして立派な球団史が出版できるのも私とチーム創設以来、同期の戦友である内山秀敏君の協力の賜物と感謝している。彼は初期の「バミューダ・タイムズ」の創刊と毎試合発行を一人でやり遂げた。更に一冊目の本の出版に当たっては、スコアの訂正、集計という大へんな努力を惜しみなく払ってくれた。校正、印刷屋との交渉など一手に引き受けたお蔭で本が出せた。彼の遊び心は前著の「遊びに手を抜かない熱狂草野球軍団、バミューダズ」を読めばよく判かる。

今回も、一冊目の本を作った経験を生かしてくれた。こともあろうか、第一試合からスコア・ブックを再検討してくれ、記録の訂正、修正を試みてくれた。それで、前の本の記録もさかのぼって訂正することになった次第である。記録が充実し、年度表彰者の名前も一覧できることになった。そんなこともあって、今回、「名球会」の規約も見直しを行った。

最後になりましたが、チームの先輩諸兄、わが同胞、ファンの皆さん、ナインの家族の方々、それに「バミューダズ」と対戦して頂いたライバル・チームの方々のご協力の賜物と感謝致します。今後ともバミューダズへ変わりないご支援をお願いします。

（1986年11月18日）

表彰選手一覧

(敬称略)

年度	最高殊勲選手	新人王	特 別 賞
1976	松 本 哲 郎		
1977	神 原 貞 昭	小 林 剛	最優秀投手・金子 治 本塁打王・安藤憲明 盗塁王・塩瀬正明
1978	安 藤 憲 明	野 村 尚 史	タブチ賞・松本哲郎 技能賞・加藤千武
1979	建 部 英 敏	植 山 周一郎	衣笠賞・油田久二雄 本塁打王・塩瀬正明 盗塁王・居山由彦 三ッ龍賞・樋口謙三
1980	榎 並 隆	大 橋 洋 行	雷電賞・塩瀬正明 首位打者賞・金子 治
1981	建 部 英 敏	鈴 木 満 夫	敢闘賞・藤本和彦
1982	塩 瀬 正 明	渋谷 和 明	首位打者賞・大橋洋行 本塁打王・徳光 始 最優秀投手・鈴木満夫
1983	塩 瀬 正 明	奥 昭 敏	盗塁王・藤本和彦 カムバック賞・滝川貞夫
1984	宮 嶋 功 明	吉 田 洋	最優秀投手・建部英敏 国民栄誉賞・大橋洋行 ダイヤモンドグラブ賞 永嶋 仁 盗塁王・徳光 始
1985	徳 光 始	重 野 和 夫	首位打者賞・宮嶋功明 カムバック賞・奥 昭敏 最優秀救援投手・渋谷和明 ファンクラブ企画推進賞・北野博基 ピューリッツァー賞・内山秀敏 大蔵賞・平垣満利子 ファンクラブ大賞・水野葉子・勝又裕子・辻千鶴子
1986	渋谷 和 明	竹 内 博 敏	本塁打王・徳光 始 首位打者賞・重野和夫 盗塁王・北野博基 春団治賞・松本浩昭 沢村賞・塩瀬正明 ゴールデングラブ賞・永嶋 仁

遊びに手を抜かない、バミューダズ10年史

1976年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8月21日、創立第一戦に勝利（3-1ゼロックス、千葉流山にて） 第一戦先発メンバーは、(三)斉藤、(二)塩瀬、(遊)神原、(捕)安藤、(投)建部、(一)松本(哲)、(左)加藤、(中)浅井田、(右)内山 ○ 「月刊スポーツ」創刊号が第一戦直後発行される。以後も毎試合発行。 ○ 3試合を行ない2勝1引分
1977年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 金子治、小林、油田など入団 ○ 8戦して4勝4敗
1978年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 松下電器貿易との定期戦はじまる。金子治の決勝打で2-1の逆転勝ち。 ○ 女性選手第1号、佐々木よう子さんデビュー。 ○ ついに骨折者出る。うの木での夏期練習会、塩瀬が複雑骨折。 ○ 試合数がふえたので「月刊スポーツ」を「バミューダ・タイムズ」に改称。 ○ 野村(尚)、飯田、樋口など入団。 ○ 15戦して7勝4敗4引分。
1979年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 佐久遠征・合宿はじまる。地元の強豪ルオー・ファミリーに4-6で惜敗。 ○ 外人選手第1号、Paul Fraker選手入団。 ○ 榎並、居山、滝川、植山など入団。 ○ 油田は第一号海外赴任としてオーストラリアに。 ○ 17戦して10勝6敗1引分。
1980年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回サンケイスポーツ野球大会に出場、三回戦に進出。 ○ 対松下電器貿易戦、3連勝を飾る。 ○ 塩瀬投手、年間11勝をマーク。草野球で年間二桁勝利は大記録。 ○ 藤本、大橋、徳光、古川、田中、Marty Rathes入団。 ○ 滝川、海外赴任（米国、サンディエゴ）。 ○ ついに試合数が年間20を突破。24戦して17勝4敗3引分。
1981年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第三回佐久合宿。三度目の挑戦でルオー・ファミリーに初勝利（5-3）。 ○ 最終戦で通算50勝を達成。鈴木、鬼頭など入団。 ○ 19戦して10勝7敗2引分。

- 1982年
- この年より監督制を採用、塩瀬正明氏が初代監督に就任。
 - 7月、第一回ファン感謝テニス・ツアーを行なう（以後毎年開催）。
 - 品川区大会（2部）にて最終回3-9から9点を奪い大逆転勝ち。
 - 8月21日、ついに通算100試合達成。試合は3-4で通産省にサヨナラ負け。
 - 品川区大会（2部）で佐川急便に3-0で快勝、ベスト8に進出。
 - 渋谷、横野など入団。その一方で海外赴任者続出。飯田（ミラノ）、小林（シンガポール）、野村（ニューヨーク）、鬼頭（カイロ）など。
 - 22戦して12勝6敗4引分。
- 1983年
- 82年の100試合達成を機に球団誌第1号を自費出版した。
 - 春のキャンプを沼津グラウンドで初めて行なう（以後毎年実施）。
 - ソニー本社圏のオーシャンリーグに初参加、優勝する（11月）。
 - 宮嶋、奥、永嶋、松本浩、吉田、韓が入団、滝川が米国からカムバック。
 - 名球会が創設され、建部（通算30勝）、塩瀬（100試合出場）、藤本、居山（60盗塁）の4名が栄えある創立メンバーとなった。
 - 25戦して14勝10敗1引分。一時は3勝7敗となったが盛り返した。
- 1984年
- 第一回ファン感謝スキー・ツアーを開催（以後毎年実施）。
 - 日産グリーンカップの予選を勝ち抜き、東京都大会の四回戦まで進出。
 - オーシャン・リーグは3位に終る。
 - 宮嶋、三冠王達成。
 - 北野、重野が入団。大橋、ニューヨークに転勤。榎並、新潟に移住。
 - 25戦して17勝7敗1引分。
- 1985年
- 8月17日、通算100勝を達成（169試合目、14-8でルーマーズに勝利）
 - オーシャン・リーグ、2度目の優勝を飾る。
 - 榎並（通算打率3割以上）、徳光（60盗塁）、内山（100試合出場）が名球会入り。
 - 奥、病床より気力のカムバック。飯田もイタリアからカムバック。韓、ドイツ転勤。金子（克）入団。
 - 女性ファン激増、観客動員数も史上最高。
 - 25戦して17勝4敗3引分。7月から10月にかけて10連勝。
- 1986年
- 8月21日、創立10周年をむかえた。
 - 9月27日通算200試合達成。試合はオーシャン準決勝で惜敗。3位となる。
 - 建部がオランダ、宮嶋が関西中央ソニーに転勤。竹内、若泉、坂本、谷川、横山など入団。
 - 史上最高の年間29試合を行ない、21勝6敗2引分（初の20勝）。

オーシャンリーグ

(俺たちの日本シリーズ)初出場で偉業

V1達成!

宙に無銭の監督の巨体。眼に涙、

昭和58年度オーシャンリーグ優勝決定戦

(11月12日 土 PM 11:15 3:00)

天王洲球場 [主審・奥村]

タイターズ	0	1	2	0	1	0	4	(6回時間切)
バッシュ・タイムズ	0	1	0	2	0	6	9	(コールド)
ニッパライターズ	●	田中	小林					
バッシュ・タイムズ	○	塩瀬	大橋					
						晴	観衆	バ軍1人女性 N軍7人

劇的サヨナラは試合前に企てられていた。

実はこの試合の直前、B軍は

デトロイトと闘い、鈴木投手

の乱調で敗れているのである。詳

細(128号)このゲームとオ

ーシャンリーグの決戦は一つのモ

のとして戦格的に企画された。ス

タメンと代替、ポジションなど

が綿密に練られていた。

あと10分で試合終了

ゲームは、1点を追って6回裏を

迎えた。ミニで主審タリ、あと10

分しかないのに、ミニの回が終りし

がある場合は試合終了とする。B軍

があった。どこかで聞いたセリふ

そうです。昨年のB軍リーグで野

井沢のランの案から駆けあがり

をめぐり返し、は9で逆転し

たゲームと全く同じでありません

B軍の逆転

6回裏、田中がファーストエラー

で出塁。すかさず塩瀬、ミニで下

軍は全壊りになった。次打者横

野の送りバントが内野安打とな

り、無死1、3塁。大橋は死球で

無死満塁。一打逆転サヨナラ

ニッサン・グリーンカップ東京都大会 4回戦進出

1984年度

No	日付	球 場		スコア	対戦相手	勝敗投手	備 考
134	4/7	天 王 洲	●	0-7	ソニー・テクトロニクス	塩 瀬	
135	4/21	大井埠頭	○	18-0	AIRSHIPS	塩 瀬	
	5/6	天 王 洲	○	27-0	スリーパーズ	建 部	品川区2部 1回戦
	5/12	う の 木	○	3-0	ハンダーズ	宮 嶋	オーシャン・リーグ
	5/12	清水建設	○	6-1	住宅都市公団多摩局	塩 瀬	ニッサン・グリーンカップ予選
	5/22	芝 公 園	●	2-7	J E T R O	宮 嶋	
140	5/26	う の 木	△	3-3	ファイターズ	-	オーシャン・リーグ
	6/9	う の 木	○	11-3	西八コナッツ	建 部	ニッサン・グリーンカップ予選決勝
	6/16	大井埠頭	○	10-1	グリフィング	宮 嶋	オーシャン・リーグ
	7/7	う の 木	●	3-4	羽田ウィングス	宮 嶋	オーシャン・リーグ
	7/8	天 王 洲	■	-	ルーキーズ	-	品川区2部 2回戦
	7/8	天 王 洲	○	4-2	ルーキーズ	建 部	
145	7/22	サンスポ	○	9-1	キャベット	塩 瀬	ニッサン・グリーンカップ東京都大会2回戦
	8/5	サンスポ	○	6-0	スーパースターズ	建 部	ニッサン・グリーンカップ東京都大会3回戦
	8/5	サンスポ	●	0-11	ロ グ ス	宮 嶋	ニッサン・グリーンカップ東京都大会4回戦
	8/11	天 王 洲	○	12-0	インパルス	塩 瀬	オーシャン・リーグ
	8/19	う の 木	○	11-0	ベ ガ ー ズ	鈴 木	オーシャン・リーグ、大橋社行試合
150	9/8	八 潮 北	○	7-1	エ ー コ ン ズ	宮 嶋	オーシャン・リーグ
	9/15	天 王 洲	●	2-3	ブ ロ ン コ	宮 嶋	品川区秋季大会 1回戦
	9/29	佐久市営	●	4-8	中込原クラブ	榎 並	第5回佐久合宿
	10/10	海 老 名	●	0-5	ダンディーズ	塩 瀬	オーシャン・リーグ準決勝
	10/10	海 老 名	○	2-1	ル ー マ ー ズ	建 部	オーシャン・リーグ3位決定戦
155	10/27	天 王 洲	○	17-0	AIRSHIPS	宮 嶋	
	11/10	う の 木	○	13-1	経 団 連	塩 瀬	
	11/17	う の 木	○	12-0	ソニー・テクトロニクス	宮 嶋	
158	12/1	う の 木	○	2-0	J E T R O	建 部	

25戦17勝7敗1引分(他に1不戦敗)(勝率.708,総得点184,総失点59)

最高殊勲選手 宮嶋功明選手(打率.422,打点19,本塁打4の三冠王)

新 人 王 吉田 洋選手(打率.320)

最優秀投手賞 建部英敏選手(6勝0敗,防御率0.68)

国民栄誉賞 大橋洋行選手(5年間通算打率.361を残しニューヨークに)

ダイヤモンドクラブ賞 永嶋 仁選手(最も守備が安定した外野手)

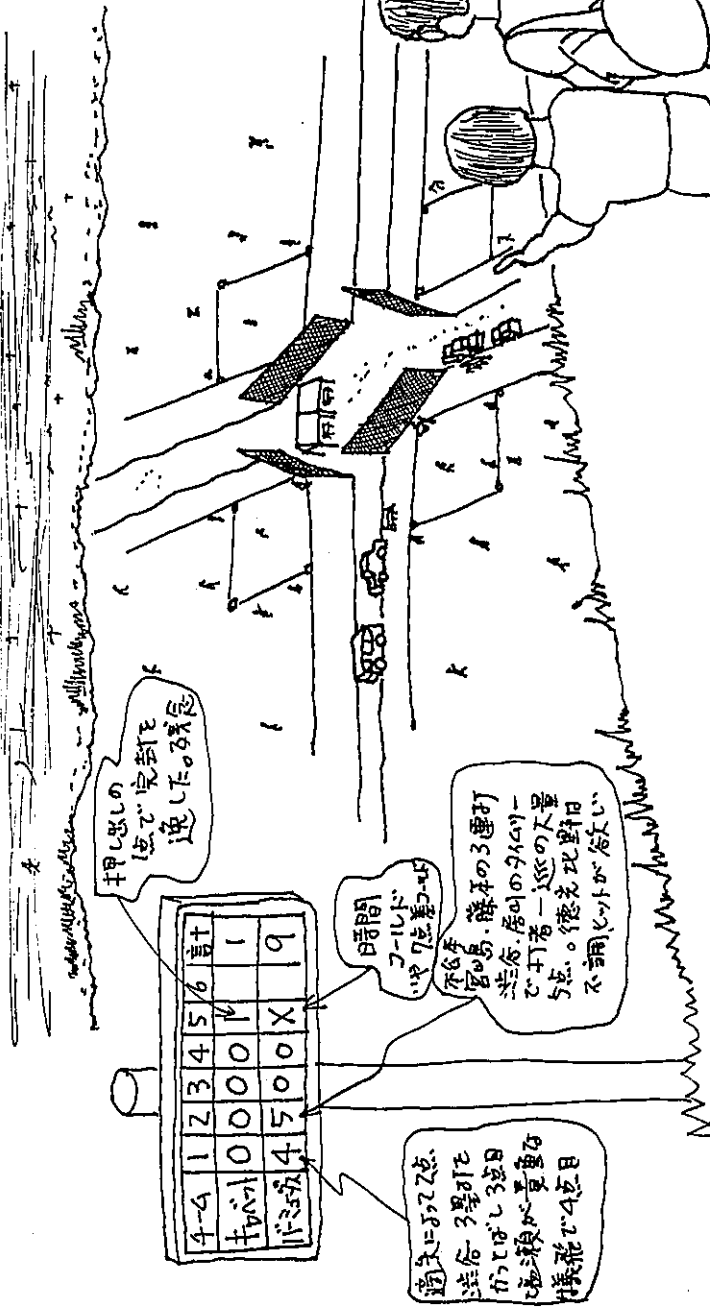
盗 塁 王 徳光 始選手(28盗塁)

NISSAN GREEN CUP 1勝

No. 145

84年7月22日 軍は

ニッサングリーンカップ第1回戦で
キャプテンと9打と快勝した。
勝投手 塩瀬、三塁手 藤本
送合、二塁手 居山。



NO 145 THE BERMUDA STIMES

オーシャン・リーグ 2 度目の優勝 / 通算 100 勝達成

1985 年度

No	日付	球 場	スコア	対戦相手	勝敗投手	備 考
159	3/23	サンスポ	□ 不戦勝	コーレルクラブ	—	サンケイスポーツ大会 1 回戦
	3/23	サンスポ	○ 4-0	丸の内ホテル	重 野	
160	3/31	サンスポ	● 0-1	ブラックシャドウズ	建 部	サンケイスポーツ大会 2 回戦
	5/11	う の 木	○ 14-2	インパルス	宮 嶋	オーシャン・リーグ
	5/25	八 潮 北	□ 不戦勝	レオパーズ	—	オーシャン・リーグ
	5/25	八 潮 北	○ 5-3	レオパーズ	塩 瀬	
	6/ 1	品川青空	○ 4-3	ニューファイターズ	金子治	オーシャン・リーグ
	6/ 1	戸塚金井	○ 1-0	ダンディーズ	建 部	
165	6/23	天 王 洲	● 5-6	ウィングス	重 野	品川区 2 部 1 回戦
	7/ 6	う の 木	△ 1-1	カセッターズ	—	オーシャン・リーグ
	7/20	う の 木	○ 6-0	松下電器貿易	塩 瀬	第 8 回定期戦 (通算 7 勝 1 引分)
	8/10	う の 木	△ 2-2	レ コ ー ズ	—	
	8/17	品川青空	○ 14-8	ル ー マ ー ズ	重 野	通算 100 勝達成
	8/18	う の 木	○ 13-2	クリッパーズ	建 部	オーシャン・リーグ
	8/18	う の 木	○ 4-1	八潮ドルフィンズ	金子治	
	8/23	天 王 洲	○ 6-4	光 写 真	建 部	ナイター
	8/24	羽 根 木	○ 9-5	J E T R O	塩 瀬	
	9/14	八 潮 北	△ 1-1	エ ー コ ン ズ	—	オーシャン・リーグ
175	9/23	多摩川緑地	○ 9-0	ドルフィンズ	塩 瀬	オーシャン・リーグ準々決勝
	9/28	天 王 洲	○ 3-2	ダンディーズ	渋谷	オーシャン・リーグ準決勝
	10/ 5	品川区民	○ 5-4	レ コ ー ズ	渋谷	オーシャン・リーグ決勝→優勝!
	10/13	天 王 洲	○ 2-0	ツ バ サ	宮 嶋	品川区民大会 1 回戦
	10/20	天 王 洲	▲ 1-1	レッド・ブレッツ	—	品川区民大会 2 回戦 (プレーオフ 1-3)
	10/27	セイウブラザ	● 0-1	バイレーツ	宮 嶋	ナイター
180	11/ 2	品川区民	○ 5-1	八潮ドルフィンズ	塩 瀬	
	11/16	う の 木	○ 11-0	J O K E R S	宮 嶋	
183	11/30	天 王 洲	● 0-1	クリッパーズ	塩 瀬	

25 戦 17 勝 4 敗 4 引分 (他に 2 不戦勝) (勝率. 810, 総得点 125, 総失点 49)

最高殊勲選手 徳光 始選手 (打点 13, 盗塁 21, 得点 14 の三冠王)

新 人 王 重野和夫選手 (打率. 364, 投手として 2 勝 1 敗 1 セーブ)

首位打者賞 宮嶋功明選手 (打率. 366, 2 年連続首位打者)

カムバック賞 奥 昭敏選手 (打率. 325, 一年間の療養生活から、みごとカムバック)

最優秀救援投手 渋谷和明選手 (オーシャン・リーグ決勝のピンチ脱出は後世まで語り継がれる)

ファンクラブ企画推進賞 北野博基選手 (史上最高の観客動員、そしてテニス・ツアーの大成功)

バミューダタイムズ・ピューリッツァー賞 内山秀敏選手。大蔵賞平垣マネージャー。

ファンクラブ大賞・水野さん、勝又さん、辻さん。

バッシュ・ダズ・タイムズ

編集長 塩瀬

No. 169
85. 8. 22

85年通算
9勝3敗2分
(うち3勝)

100勝!

創設9年の

偉業

1976年8月21日
対ロックス戦に勝て
以来、わがバッシュ・ダズ
は100勝を達成した。
結果は大勝だったが、内
容的には接戦だった。

8月17日(土) 青空球場A
時間切れコールド

ルーマズ 040408

バッシュ・ダズ 3074X4

(勝投手)重野(三塁打)

重野(三塁打)重野(三塁打)

谷、塩瀬永島

投手は不調

先発連部は、1回を
三者凡退に抑え好調な
スタートと思わせたが、2
回に四球を出し長打を
打たれるという先週と同
いパターンで100勝投手の
栄誉を残念した。二番
手重野も4回には四死球
を連発し、内野のタイム
リーエラーも出て4失点
と不調だった。

B軍先攻

にも係らず何故勝てた
か？
1回先頭打者出野が四球
で出塁。すかさず塩瀬し、その
後の敵失で1点目。連部の
タイムリーヒットで先攻し
た。

重野タナボタ

2回には、2四球、3三塁打、1
単打を与えた連部はル
ーマズに4点を献上し、4対
3と逆転され、バックアウ
ト
打者10人の猛攻(3回)
3回二死後、渡辺投手が突
然乱調。四死球にタイムリ
ー二塁打2本、エラーでワ
失点とし10対4とB軍
再逆転。余裕が出てき
た。この攻撃で三振し
てくるが、塩瀬に振り逃げ
を許し1失点をしている。

試合は楽勝かと思われ
たが、4回に重野がイコン
病。力むボールが高目に
空をきる。6月23日の品川
区リーグを再現させた。
しかし、4回裏、重野、渋谷

創立10周年/通算200試合達成

1986年度

No	日付	球 場		スコア	対戦相手	勝敗投手	備 考
184	3/1	天 王 洲	○	6-1	バ リ オ	塩 瀬	
185	4/5	天 王 洲	○	7-0	レ オ パ ー ズ	宮 嶋	オーシャン・リーグ
	4/12	う の 木	○	7-1	マ グ ネ ッ ツ	塩 瀬	オーシャン・リーグ
	5/10	う の 木	○	16-0	グ リ フ ィ ン ズ	宮 嶋	オーシャン・リーグ, 宮嶋壮行試合
	5/17	八 潮 北	○	4-1	イ ン パ ル ス	建 部	オーシャン・リーグ, 建部壮行試合
	6/7	八 潮 北	○	16-1	カ セ ッ タ ー ズ	塩 瀬	オーシャン・リーグ
	6/8	—	□	不戦勝	スーパーマリオ・ ブラザーズ	—	ニッサン・グリーンカップ予選
190	6/8	八王子滝ヶ原	○	2-1	フ ェ ー ラ リ ー ズ	重 野	ニッサン・グリーンカップ予選決勝
	6/15	天 王 洲	●	1-7	ベ ル ウ ッ ツ	金子治	品川区2部 1回戦
	6/29	う の 木	●	5-9	フ ェ イ タ ー ズ	渋谷	オーシャン・リーグ
	7/25	天 王 洲	△	3-3	八潮ドルフィンズ	—	
	7/27	サ ン ス ボ	●	2-5	東 京 イ ー グ ル ス	塩 瀬	ニッサン・グリーンカップ東京都大会2回戦
195	8/9	第一生命	○	5-1	J E T R O	塩 瀬	
	8/16	品川青空	○	6-3	レ コ ー ズ	渋谷	
	8/23	う の 木	○	4-2	ダ ン デ ィ ー ズ	塩 瀬	オーシャン・リーグ, 創立10周年仮祝宴
	8/30	多摩川緑地	●	3-4	八潮ドルフィンズ	渋谷	
	9/13	八 潮 北	○	2-1	ソニー・マグネスケール	渋谷	
200	9/27	天 王 洲	●	1-3	イ ン パ ル ス	塩 瀬	オーシャン・リーグ準決勝, 通算200試合
	9/27	品川区民	○	3-2	レ コ ー ズ	宮 嶋	オーシャン・リーグ3位決定戦
	10/4	蓼科製作所	○	3-1	長野相互銀行	渋谷	第6回(2年ぶり)佐久遠征・合宿
	10/11	青山墓地	△	3-3	ソニー・フルデンシャル	—	
	10/18	天 王 洲	○	13-2	松下電器貿易	塩 瀬	第9回定期戦(通算8勝1引分)
205	10/25	小見川町営	○	8-2	ク リ ッ パ ー ズ	塩 瀬	タロン(小見川)遠征
	10/25	小見川町営	○	17-0	タ ロ ン	重 野	タロン(小見川)遠征
	10/31	天 王 洲	○	13-0	J E T R O	重 野	ナイター, 通算対戦成績6勝5敗
	11/8	天 王 洲	●	9-12	ソニー・テクトロニクス	重 野	
	11/15	品川区民	○	8-2	八潮ドルフィンズ	塩 瀬	
210	11/29	う の 木	○	10-2	レ イ ダ ー ズ	塩 瀬	チーム通算 100号本塁打(渋谷)
	11/29	天 王 洲	○	9-3	エ ー コ ン ズ	竹 内	
212	12/6	う の 木	○	5-4	丸 文	竹 内	

29戦21勝6敗2引分(他に1不戦勝)(勝率.778, 総得点191, 総失点76)

最高殊勲選手 渋谷和明選手(20打点は球団史上最高, 打率.333)

新 人 王 竹内敏博選手(投手として2勝0敗)

首位打者賞 重野和夫選手(打率.452)

本 塁 打 王 徳光 始選手(本塁打5本は球団史上最高)

盗 塁 王 北野博基選手(25盗塁)

春 団 治 賞 松本浩昭選手(打率.391)

沢 村 賞 塩瀬正明選手(9勝2敗, 防御率1.59, 打率.327)

ゴールデングラブ賞 永嶋 仁選手(安心して見ていられる外野守備)

合
合
遊
戦2回会
宴祝仮
合試D
宿
文
谷)

勝投手・建部セーブ・重野
敗投手・小野

建部選子のB軍

創設からの戦績

榮枯盛衰、万物循環の現実に
バミューダズはすでに十年といふ
悠久の歴史を持つに至った。
海外赴任者は十人を越え、また
飯田、渡川両選手はすでに帰国、
有力選手として活躍している。
「並びに争ふも、抜かぬ」バミューダズは
今後とも園境と会社の枠を超えて
自己増強を続け、数年後には、
草野班のエスクリマーメントとして
愛都選手の帰国を待つ。
建部選手のDECでの活躍と
帰国後の力強い復活を祈念する。

(建設省へのインシデント)

最後の試合のご感想を。

最後を勝利で飾れ、ともうれしい。

チームメイトの最大の関心事は、
帰国時にカムバックできるか
どうかですわ？

オラングではニスと自動車で鍛
ます。帰国時まで現在の球威
を維持し、最初のシーズンで
MVPのを獲得します。

・五回表無死三三塁一塁者の
 ヒートを切り抜けた最後の球
 は何ですか？
 フォークボールです。

名球会規約

(目的) バミューダズの伝統を守り、更に発展させてゆくために、バミューダズ戦士として長年にわたって活躍した選手を会員とし、チームの発展のため、より一層重大な義務を負うという榮譽を与えるものとする。

(会員の資格) この光栄ある名球会員は、下記のいずれかの条件に該当する者とする。

1. 投手
 - ① 勝利数が通算30勝以上
 - ② セーブポイントが通算15以上
2. 野手
 - ① 100試合以上出場
 - ② 通算80安打
 - ③ 通算20本塁打
 - ④ 通算60打点
 - ⑤ 通算80盗塁
 - ⑥ 通算100四死球
 - ⑦ 通算100三振
 - ⑧ 50試合以上に出場し、打率3割

(引退選手に限る)

(会員の義務) 心酔しているバミューダズ魂に基き、自ら率先して後輩の人材開発並びに指導、育成にあたり、バ軍の強化に粉骨の努力を注ぐこと。また球団の、公正にして円滑なる運営を常に心懸けること。特に財政面(会費)は他の選手以上の負担をするものとする。

(会員の権利)

1. 「バミューダ・タイムズ」の永久無料配布。
2. 毎年度末のドラフト会議で決定される年度表彰につき優先発言権を有し、選考に当っては名球会員の発言は最大限尊重されるものとする。

3. バミューダズの試合をはじめとする、各種行事に優先的に参加することができる。
4. その他、名球会の活動については、会員の協議により決定するものとする。

名球会選手一覧(1986年12月現在)

建部英敏選手	投手勝利数	41
	安打数	85
	打点	74 他
塩瀬正明選手	試合数	181
	安打数	96
	打点	80
	投手勝利数	44 他
藤本和彦選手	盗塁	100
居山由彦選手	盗塁	81
	試合数	113
徳光 始選手	打点	75
	盗塁	107
	試合数	119
榎並 隆選手	53試合で打率3割	(.3129)
内山秀敏選手	試合数	114

1987年に名球会入りしそうな選手

渋谷和明選手	試合数	96
	打点	56
金子 治選手	試合数	91

(数字は1986年12月末現在)

— 技 術 論 —

Bermudas 23-

早いもので私が“バミューダーズ”に入団して6年たちました。今、入団当時のバミューダーズとの違いを考えてみますと、最も違うのは打力だと思います。当時は、大橋・榎並のスラッガー、塩瀬・安藤・小林の一発屋、スプレーヒッターの建部と言うように、打力のチームでした。ところが今年のバミューダーズは、前半戦が終わった時点で3割打者が1人もいないと言う状態です。チーム打率も、おそらく2割そこそこ、いやひょっとすると1割台かもしれません。私も打撃コーチとして責任を感じています。がしかし、その一方で守備力の向上は著しいものがあり、全体的な“強さ”は、対戦相手がレベルアップしている状況からみるとむしろ上がっていると思われます。投手力においても、塩瀬・建部の2枚看板だった当時よりコマ数の多い現在の方が、試合数の多いバミューダーズとしてはやや上ではないかと思います。と言うことは、これに打力が加われば“鬼に金棒”と言う訳です。

【 打 撃 編 】

打力の向上、これは各個人への練習しかないと思います。しかし、打線の向上は試合ごとの各自の働きで可能な事です。たとえばヒットはなくとも、エラーや四死球で出た走者を確実に送って、スクイズや犠牲フライなどで返す。この1点の相手投手に与える心理的影響は、ホームランよりも大きく、いやなものです。野球が団体競技である以上、このようなチームプレーで上げた点数が、チームの志気向上にも重要です。

今のバミューダーズには、ホームランバッターと呼べる選手は、はっきり言っていません。ちょっとゴマスリっぽい、バットにまともに当たった時の塩瀬監督ぐらいです。

ゆえに、いまバミューダーズ選手諸兄に必要なのは、大きな当たりより確実なミートです。それにはどうすればよいか、答えは1つ、ボールをよく見ることです。これは簡単そうで非常に難しい事です。自分ではよく見ていたつもりでも、ベンチから見るとヘッドアップしていたと言うことはよくあります。昔、あのミスター長嶋選手（巨人）が若手選手に「バッティングのコツは？」と聞かれた時、「来た球をバット打つ!!これがコツだ!!」と答えたと言います。これこそバッティングの基本だと思います。「来た球をバット打つ」のはボールを最後までしっかり見ていないと出来ません。それと、そのボールを最短距離

で振り下ろしたバットで確実にたたくことが必要です。これには素振り、およびバッティング練習しかありません。

素振りは、まとめて沢山振るよりも、毎日少しづつでも振った方が効果があります。その際、コースを頭に浮かべて振るとより効果があります。

バットは引き手（右打者ならば左手）で振るようにします。反対の手は、やわらかく握ってインパクトの瞬間のみ強く握るようにします。これが出来ると、落合のように一見すると、力が全然入ってないようでも、打球が思った以上に伸びるようになります。なかなか難しいですけどね。

あとは気力です。何が何でも打ってやると言う気持ちが必要です。ベンチでは冗談を言っている、いざバッターボックスに入ったら、相手投手の顔面にぶつけるぐらいの気迫が必要です。これはバントの時でも同じです。顔で打ってもバントを成功させるつもりでなければなかなかきまりません。

バットスイングは、練習の時にいろいろチェックしておいてバッターボックスに入ったら、細かいことは一切考えないようにします。

バッターボックスに入ったら、ボールにバットをぶつけるつもり・・・いや、実際にぶつけるように振ることだけを考えるようにします。但し現在の試合の状況（ランナーの有無およびアウトカウント等）だけは頭に入れておく必要はあります。

要はいざ試合にのぞんだ時は、技術ではなく気力だと言うことです。打席に入ってあれこれと考えても、そうやすやすと出来るものではありません。考えるのはただ1つ、前にも書いたとおり「来た球を思いっきりたたく!!」これが大切です。

【 走 塁 編 】

次に走塁です。これは人それぞれに早い遅いがあります。が、これも、早いからいいと言うものでもありません。全てにおいてそうですが、走塁もその時の状況によって異なります。無死の時、二死の時、ランナーなしの時、ランナー・三塁の時、すべて異なって来ます。そこに共通するのは、その時点での状況と球の行方をすばやく判断することです。たとえば、二死・一・三塁での一塁ランナーの盗塁です。ディレードスチールの形でスタートするのですが、無死・一死の場合は、三塁ランナーのホームスチールを助ける為に、アウトになってもいいと言う走り方をします。しかし、二死の場合は、三塁ランナーが本塁を踏むまではアウトにならないようにするのが良い走塁です。また、相反するようですが、ためらいも厳禁です。行くと決めたら思いきって行く事です。暴走・好走紙一重と言いま

すからね。

【 守 備 編 】

次に守備です。私はこれが一番大切だと思います。草野球にエラーは付き物といいますが、逆に言えば、エラーさえしなければ勝てるとも言います。バミューダーズの長い？戦歴でも、負け試合には必ずと言っても良い程エラーが付いています。打線がそれ程打てないからには、守って勝つ以外に勝機はありません。また、守備は、練習によって上手くなります。基本は、バッティングと同じで、状況判断とグラブに入るまでボールを見る事です。

細かく言うと、内野ゴロは、必ずグラブは下から上へ動かすこと、足は揃えずどちらかの足が前へ出た形にする事。両手で捕る、特に内野は捕るだけでなく、次に送球しなければなりません。だからその動き（捕る⇒投げる）を早くする為にも両手捕りは欠かせない物です。

外野については、フライの場合は球の下に早く行く、球のスピードにつられて追わない、と言うのが基本です。イージーフライの場合、よくあるのは、球のスピードに合わせてゆっくり追うと言うことです。この場合、何かアクシデントがあった場合、たとえば、強風で思った位置と違う所へ落ちて来た場合、けつまづいたりした場合に、球と同じように追っているとあわてる結果になります。その場合、球の落下点に早く入っていれば、そのような時にでも余裕を持って対処出来ます。また、外野は球が来る機会が少ないので、いつも遠投が出来るように肩を暖めておくのも大切なことです。そうしておかないと突然球が来た時にコントロールが定まらなくなってしまいます。

全体的に言うと、中心ラインは、あまり変えない事です。ピッチャーは別として、キャッチャー、セカンド、ショート、センターの中心ラインは、ある程度固定したメンバーで望む事が大切です。セカンドと言うのは、草野球ではへたな人の指定席みたいに言われますが、それはレベルの低いチームの事です。我がバミューダーズのようにレベルの高い…相手と戦うチームは、セカンドがしっかりしていないと勝てません。たとえば牽制球でもランナーを刺すのはセカンドの仕事で、ショートはランナーをベースに釘付けにする事が仕事です。また、盗塁の時でも、ショート、セカンド両方が使えれば、左打者の時はショート、右打者の時はセカンドと言うように、入る事が出来ます。さらに、重野投手と塩瀬投手では、ストレートの時の守備位置が違う、と言うような状況判断も必要です。そして、ゲッツーのキーマンもセカンド、ショートです。セカンド、ショートがいかに早くスロー

イングするかによって決まります。そして各種サインプレーもセカンド、ショートが入っていないのは、ごくわずかしかなかった。だから、セカンド、ショートがくるくる代わるチームは、レベルが低いと思って良いと言えます。まあ、自分がセカンド出身なものでちょっと肩入れしすぎましたが、他のポジションも、ちゃんと仕事（捕って投げる以外）があります。

まず、捕手、これはインサイドワークが必要ですが草野球ではそれほど重視されません。一番必要なのはスローイングです。肩が強い事、捕ってから投げるのが早い事、コントロールが良い事この3つが草野球捕手の3要素です。

次に一塁手、体が柔らかい事、ショートバウンドに強い事、体でボールを止められる事などです。

次にセカンド、ショートです。この違いはショートに肩の強さが要求されるぐらいです。セカンド、ショートに必要なのは、野球知識（ルール含む）です。これはチームの勝ち負けを左右するぐらいに重要な事です。

次にサードです。サードに必要なのは、気力と活力と明るさです。バミューダーズにはピッタリのサードが奥選手です。同じ背番号の某プロ野球球団の選手の暗さに較べると格段の差があります。

最後に外野です。バミューダーズを含めた草野球チームに言える事は、外野の守備が内野に比べてわりと軽く見られている事です。しかし、内野のエラーは、次の塁を与えるぐらいですみますが、外野のエラーは点を与える事になります。前述の守備要領をよく守って球を決して後ろにそらさない事が大切です。と言っても、弱気になってノーバウンドで捕れる球をワンバウンドで捕るような事がないように、でもこれも試合状況によります。

それと、もう1つ大切な事はカバーです。一塁へ、他の内野手から送球が行われた場合は、必ずライトがカバーにまわる、と言うように1つの打球に対して9人全員が動かなくてはなりません。それには、次の打球に対する動きを常に頭の中で予測しておく事が大切です。

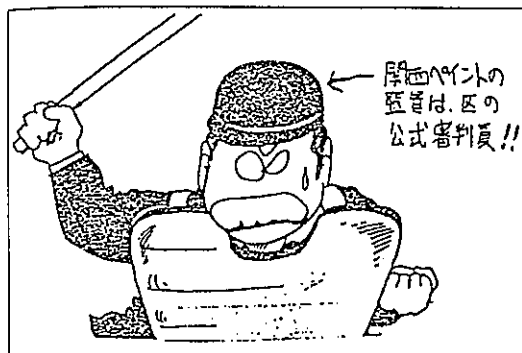
打・走・守と色々書いてきましたが、全てに共通する事は、試合中は、1個の球に集中する事です。そうすれば必ず勝機があると思います。

野球大好き人間の集まり“バミューダーズ”を、もっともっとレベルアップしてもっと楽しい野球をやしましょう。

文章の全然得意じゃない（体を動かすのは最も得意）私のとりとめのない話で申し訳ありませんが、私の小学校からの長い野球人生で得た事を書きました。これからバミューダーズの勝利の為にみんなでガンバリましょう。

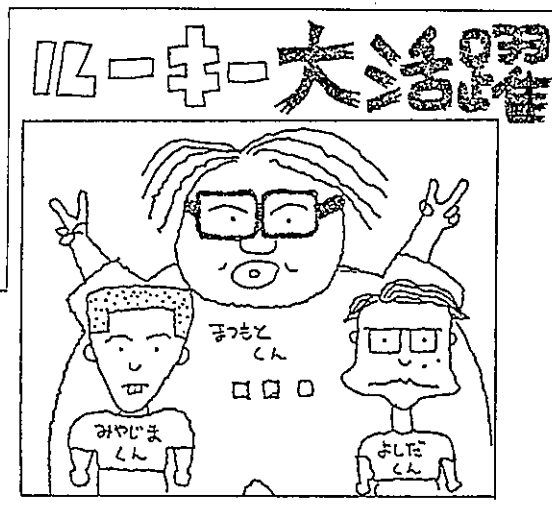
Bermudas助監督 藤本 和彦

バミューダ・タイムズ名画集

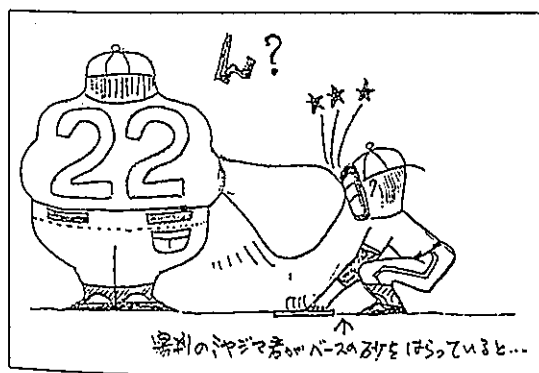


114号 (1983. 5. 23)

【Bermudasのバミューダ・タイムズ】
タイムズ攻撃の陣中、
田中は、スラッシャーの
ウラヤ、右は、エース
投手の、バミューダ・
スターの、バミューダ・
スターの、バミューダ・
スターの、バミューダ・



120号 (1983. 8. 21)



122号 (1983. 9. 21)



134号 (1984. 4. 22)

バミューダズ戦士より、ひとこと

(順不同)

バミューダズ戦士の過激な休日 徳光 始

土曜朝6時起床。熱いシャワーで身体中の細胞が目覚める。午前9時品川駅港南口集合。午前11時東関道を経由して千葉の果て利根川沿いのグラウンド到着。昨年までがんばれベアーズだったクリッパーズを撃破。背中にファンの熱い視線を感じながらも本塁打を含む4打数3安打の本来の調子だ。さらにタロン小見川にも快勝し、クリッパーズのみならず地元住民にも野球とはこうやるものだと思わせて示し先達の重責を果たした。午後5時犬吠崎へ移動。午後7時宴会始まり、カラオケで歌の上手なうたいかたまでおしえてしまった。

日曜午前1時半就寝。午前4時起床。眠くて頭が痛い。有名な人には夜も昼もない。朝霧の東関道から東名を抜け午前6時半町田着。24時間レストランで朝食。この規則正しい生活のリズムこそがバミューダズ戦士のバイタリティの源泉なのだ。午前9時半から午後3時半まで社内ソフトボール全国大会出場。決勝戦まで勝ち進み、遊びに手を抜かないバミューダズ魂を全国からの代表選手に披露したのは言うまでもない。さあ、午後6時から横浜元町で結婚式の二次会だ。

我が愛すべき超異常集団 渋谷和明

総合レジャーランド・バミューダズに入団して早5年。入団前は草野球チームなんだから、「仕事、プライベート時間の合い間にも野球をやるか」と軽い気持ちでいたのに、いざ入団してみると、どうもおかしい？ 野球の試合だけで年間25試合以上、春及び秋の合宿を消

化し、さらには試合の合間にファン感謝デーと銘を打ってテニスツアー、スキーツアー等の数多くのイベントを次から次へと企画していくのである。ある時は純な野球軍団、またある時はテニス軍団、スキー軍団、さらに夜になれば若い女性ファンの為にホストクラブにまで変身してしまう変な野球軍団なのでR。それでいてこの変な軍団に私は異常な魅力を感じる。最近、この異常な軍団の中にいて不自然を感じない私は異常なんでしょうか？ 数多くの試合、ファン感謝デー等の合い間に仕事、プライベートタイムを消化するようになった私の将来はどうなるのでしょうか？

バミューダズって何？

宮嶋功明

大学4年の秋、某会社の面接に出かけた私は、「会社に入って何をしたいかね？」という質問に対し、「野球がしたい」と答えたわけがあります。結局その会社とは縁がなかったわけで、今こうしてソニーというよりも、B軍の一員としてあるわけがあります。

今年に入り、関西地区の特にN社の草野球の実情を調査すべく、大阪に派遣されておりますが、何ぶん副業の営業活動の方がいそがしく、今だに調査レポートは作成できておりません。

バミューダズって何なのかと考えてみまするに、野球を主業とする家庭をも返り見ない、雑多な人間の集合体といったところでしょうか。今後、B軍の行事にかまけて家庭を返り見ず、離婚という事態が起きない事を願うものであります。独身諸士よ、野球を理解できる女人を探そうではないか。

楽しいスポーツに

飯田恵美子

野球のある土曜日はいつも楽しそう。

夫が会社の野球を始めて8年が過ぎました。もともとスポーツ大好き人間なので、当初は野球、テニスと土・日曜が忙しかったようです。

元来私は従順で、土・日曜家をあける夫に対しても大した愚痴もこぼす訳でもなく、常に気持ちよく見送っています。これはなかなか大変な事。でも出来る限り続けましょう。

4年前イタリアへ赴任。3年間過ごしたミラノでは、家族と共にスポーツ出来る楽しさを覚えました。テニスにスキー、どれもがとても身近かで思い出深いものでした。

とても健康で、病気とはおよそ縁がないと思っていた夫が、86年3月急性肝炎で入院を余儀無くされてしまいました。みかけが病人ではないだけに、お医者様の言いつけも、ついいい加減に聞いてしまいがちでした。でもベッドに横たわっている夫を見ると、またスポーツ出来る日が来るのか、それがとても遠い事のように感じられました。

これからも無理のない程度に、健康管理の意味でも、野球や他のスポーツを続けていってほしいと思います。(飯田克美選手夫人)

バミューダズに寄せる

居山由彦

我が打球が左中間を鋭く抜けて行く。回れ回れ/ナインの声援が……回れ、回れ/自らの魂の叫びが……ホームベースへとかきたてた。夢にまで見た初ホームランが現実のものとなった……。

七回裏、同点二死満塁、守りのバ軍。一打出るとサヨナラ負の絶体絶命のピンチ。85年度オーシャンリーグ決勝戦の最大の山場、守るバ軍ナイン全員が膝も震える程の緊張を味わった。

しかし、この大ピンチを乗り越えて勝ち得た優勝の喜びは格別だった……。

そして、我人生最大の衝撃、かのミスター藤本の天才弾き語り『吉田松陰シンガポールを恋しがる』……すべてバミューダズを通して初めて接した新しい世界であった。

僕のイマジネーション、僕の青春、僕のニューウェーブ講談、……すべてのエネルギーの源となったバミューダズよ、ありがとう。バミューダズよ、永遠に……。

そして、僕は、今夜もまた新たな精神の高揚のために、生涯第2号のホームランをイメージしながら、素振りを繰り返すのだ……。

遅すぎた春

金子克之

私がバミューダズに入団したのが1985年6月。天王洲球場にてメンバーに紹介された時のことは今でも鮮明に覚えている。

当時の私はといえば、入社したばかりで意気盛んな上、中学時代には野球部で主将、不動の四番であったという誇りもあって、社会人の草野球を少しなめていたところがあった。

ところがバミューダズのレベルの高さに驚き、自らのブランクの大きさに愕然となることしばしば。私の心は大きく揺れた。このままバミューダズで大した成績も残せず、不振の一年を重ねてゆくのか。あるいはもっと気楽に、遊びとしての野球、ビール飲みながらやる和気合々の野球で満足していた方がよいのか。

否。私は今度こそバミューダズで燃焼し、必ず賞取りに名を連ねるのだ。遅咲きでもいい、栄光をこの手にするんだゾト。

家族と野球

No 14 永嶋 仁

長女が生まれた年(83年)に入団し、それから3年半が過ぎました。次女も1才になりました。結婚し、子供ができて家族を持ったり、仕事が忙がしくなったり、そして年令を重ねていくと野球が縁遠くなりがちです。この三重苦の一つである『家族と野球』について触れてみたいと思います。

一言で表現すると『耐える』ことです。妻が耐えることです。一方的で都合のいい話ですが妻が耐えるための努力をすることです。子供ができて妻の負担が多くなってきたら、手を貸すことです。自分の持っている野球以外の時間を費やすことです。だからもともと多趣味でなければなりません。自分本位のことをのべてきましたがここまできたら中途半端な野球はやりたくありません。家族を犠牲にしてまで自分が満足できる野球を続けていきたいと思っています。

最後に妻の『忍耐』に感謝しています。

闘争的個性派集団をめざして 北野博基

今から30年近く前に、「野武士集団」と形容されるプロ野球球団が九州にあった。彼らひとりひとりが強い個性の持ち主であったにもかかわらず、チームとしての団結も固く、数度にわたり日本一の座についた。九州の野球ファンは、怪童中西の弾丸ライナーホームランを期待し、また鉄腕稲尾の快投を見るために球場へ足を運んだものである。そして、中西、稲尾をはじめとし、攻走守それぞれに個性あるプレーを

見せる豊田、高倉、仰木らの選手は、見事ファンの期待に応えた。即ち、彼らにしか出来ないような魅力あふれるプレーを見せ、そして勝ったのである。今や伝説となりつつある、昭和30年代の「西鉄ライオンズ」の姿である。

さて現代に話をもどせば、野球というスポーツはだんだんと人気が落ちてきているらしい。ラグビーやアメフトに比べた場合、スピード感に欠け、体がぶつかりあう闘争性に乏しいというのが理由だそう。確かに、野球では、打球が飛んではじめて静的状態が解除される様相があるし、身体と身体がぶつかり合う場面も少ないかもしれない。しかし野球の醍醐味は、熱血プレーであると信ずる。

バミューダズは、ここ数年6割以上の勝率を残してきており、ある程度は勝ち方を身につけてきたのではないと思う。また近年は、応援に駆けつけてくれるファンも増えてきた。そこで提言である。単に勝つことを目指すのではなく、見応えのある試合、やりがいのある試合をしようではないか。同じ点の取り方でも豪快に打ち勝とう。守備においても、果敢にダイビングキャッチやダブルプレーに挑戦しよう。常に積極的に取り組むことが、各自の個性発揮につながり、快打を生み、好守へつながると信じる。

今はもうなくなってしまった九州の「野武士集団」への夢をバミューダズに託し、20周年を目指して楽しく、かつ闘争心をもってプレーをしていきたいものである。

海外赴任メンバーからの、たより

塩瀬監督およびバミューダズの皆様へ (1986年8月)

前主将 建部英敏

当地オランダに赴任してから、はや1ヶ月半が過ぎました。皆様もその後、お元気で試合に臨まれておられることと思います。

日本は残暑でまだ非常な暑さだと思いますが、こちらは全く湿気を感じず、夕方には、日本の秋を思わせるような涼風が吹き、上着なしでは涼しすぎて歩けません。昼間の時間も長く、朝は5時半頃から夜は10時ぐらいまで明るいのです。

この明るさを利用して、なんと野球の世界アマチュア選手権大会がオランダで行なわれたのです。世界の野球がオランダで実際に見られるなんて、私にとってはまるで夢の様な話です。喜び勇んで見に行ったのは当然の事です。ナイター設備も完備し、内野席だけの観覧席付きの立派な球場で(すべて芝生)、入場料は10ギルダー。

観戦した試合は、

7/27 台湾 5-4 日本(ユトレヒト)

7/30 キューバ 15-5 イタリア(ユトレヒト)
(七回コールド)

7/31 キューバ 4-2 日本(ロッテルダム)

で、キューバが7/31の日本戦を前にして優勝を決めていました。日本選手団は学生が中心だったようです。これらについては日本の新聞でお聞き及びのことと思います。

オランダではサッカーが一番人気がありますが、野球も毎日たくさん見に来ており、テレビ中継もしています。でも皆ルールは良く知らない様です。そういえば、こういう珍プレーがありました。

深いショートゴロを打った打者走者が、一塁にかけ込んだところ、ボールを捕ろうとした一塁手と交錯し(実際に体の接触が多少あった?)、一塁手がボールをそらしベンチに入ってしまった。主審は打者走者と一塁手との接触があったとし、「ファウル」を宣告した。打者はまた打ち直したが内野ゴロでアウトになってしまった。

この時主審はなぜファウルを宣告したのか理解に苦しみます。守備妨害ならば、打者走者がアウトになると思うのですが、どなたかご教授下さい。

それでは、我がバミューダズが記念すべきシーズンを、輝かしい成績で飾られることを、遠い北国の空の下にて、お祈りいたしております。皆様お元気でご活躍下さい。おたよりお待ちしております。

バミューダズチームを祝して

エーコンズ監督 奥村明雄

先般貴チーム監督塩瀬氏より創部10年、200試合達成記念の御話を聞きまして先ずは心より御祝申し上げる次第であります。

一概に200試合達成といいましても、長い間草野球を続けております私自身、誰にでも達成できる数字でないことがわかります。これは大変な偉業であることは間違いなく、草野球としては驚異に値する記録であります。

この記念すべき出版に対しまして執筆依頼のお話をいただき、いささか荷が重く本当に役に立つかどうか不安でありましたが、貴チームとは何かと御縁も有りますので大変光栄に思い感想を述べさせていただきます。又過日は100試合記念出版の部誌を読ませていただき、バミューダズの過去数々の戦歴と努力に深く感動致しました。またその後の4年間にさらに100試合を挙行された事はただ感嘆の言葉以外ありません。真に草野球の原点「ここに有り」と感激致した次第です。

さて貴チームとの御付合は83年春にオーシャン・リーグに初加盟された時であります。私がオーシャン事務局を担当していた関係上主将会議に於て各チームに紹介し仲間入りを承認されましたが、その年にいきなりブロック優勝され決勝トーナメント戦に進出。初戦～決勝へと一方的試合内容でアッサリ優勝を決めてしまった事は今日迄強く記憶に残っております。この時を境にバミューダズの加盟が各チームに大きな影響を与え、打倒バミューダズへの執念にかられ、我々を含めたリーグ全体がチーム強化へ目標を大きく持った事は間違いありません。

以後今日迄貴チームは、常にブロック優勝は

基より決勝トーナメント戦では初の2回制覇の輝かしい成績を残し、今や打倒バミューダズを大きな目標に良きライバルチームが今後とも出現して行くでしょう。現在その急先峰がレコーズで有り、今日迄選手強化に力を入れライバルチームへと急成長しました。

又私が毎回感じる事ですが、どうかすると草野球は無気力で個人プレーに走りがちなチームが多い中で、貴チームは試合に臨む姿勢がすばらしく、又全員規律の下に組織化され、投攻守三拍子揃いバランスが取れ、随所に緻密なプレーをも織り込む好チームとの印象を強く持っている者の一人です。個々の選手についてはあまり深くは存じませんが、真実目な面とユーモアセンスとを持ち合わせた好選手が多く親近感の持てる気さくなチームと常日頃感じております。良く聞く言葉ですが「たかが草野球、されど草野球」、貴チームのひたむきな草野球精神は、我々を含めたオーシャン・リーグの良き指針で有り、草野球を続ける私にとっても模範にすべき点が多々有り指導面に生かす事を痛感する次第です。

最後になりましたが今後ともバミューダズチームが増々発展され、次の目標に向って邁進努力されましていつの日か300試合の記録を樹立される日を心より期待しているものです。我がチームも着実に貴チームを目標に努力しております。いつの日か優勝戦で対決出来る日を一日も早からんことを願ってバミューダズチームへ御祝申し上げる次第です。

限りなく前進するバミューダズ萬才!!

(1986年9月25日)

選手紹介

塩瀬正明監督(創設メンバー)

投手・外野手・内野手

創設以来球団を引っ張ってきた選手である。今は、バミューダズ王国に君臨する「帝王」の風格をもつ。今季は、主力投手が転勤により2人も欠けたため、ほとんど毎試合マウンドに立つ大車輪の活躍をした。打撃面でも観客にアピールする個性をもっている。これと定めた球が来たら、渾身の力を込めてバットを振る。たとえボールとバットが数十センチ離れていても。そのスイングは同僚の選手のみならず、応援の女性ファンをもしびれさせるのである。これもまた、彼の持つ醍醐味のひとつである。

年齢を気にすることもなく、いつも精力的に野球に取り組むその姿は、草野球選手の鑑であり、ここに、ミスター・バミューダズの称号を贈りたい。

藤本和彦 助監督(80年入団)

セカンド・ショート(投手)

野球にかかる情熱は素晴らしいものがある。少年野球から大学野球までの経験者で、理論やルールをナインに教え、レベル・アップに貢献してきた。単に技術だけでなく、ファイトの塊りで盗塁王も取り、名球会メンバーである。ギターを弾かせれば、ゼニの取れるプロのミュージシャンで、合宿、納会などの宴会には欠かせない人だ。86年夏に伴侶に先立たれ、野球人生最大のピンチに立たされている。頑張れ藤本選手!

建部英敏選手(創設メンバー)

投手・外野手

彼がSONYに入社し、業務部に配属されたことでBERMUDASが誕生した。エースで四番打者、主将と文字通りチームの大黒柱として大活躍。投げては時速115Kmの快速球で三振奪取、得意の牽制でサウスポーの利点を再三見せた。守っては首位打者、打点王の常連。MVPを二度受賞している。86年6月オランダ赴任となる。何年か後に帰国した時にカムバックできるような体力強化が望まれる。

(以下50音順)

油田久二雄選手(77年入団) 外野手

外野手としての絶妙な守備と、選球眼の良さに定評がある。麻雀とビールと巨人が大好きで、徹マンの翌日によく活躍した。

79年には連続出場14試合で衣笠賞を受賞したが、同年暮れよりバ軍の海外赴任第一号として、オーストラリアで4年間勤務した。帰国後、郷里の新潟に帰り、家業を継いだ。

安藤憲明選手(創設メンバー) 内野手

バ軍創設メンバーの1人。高校時代に甲子園を目指した男だけあって、その打撃センスは大きなもの。有力新人が年々増える中であって、栄光の背番号3を創設以来死守している。最近、試合には姿を見せなくなったが、そのシュアーなバッティング、鈍足な暴走を見たいという声も多い。78年のMVP獲得当時の雄姿を再び見たいものだ。

飯田克美選手（78年入団）一塁手・外野手

かため打ちの名人。一試合2本のホームランを打った時は、最後には走り疲れて、よめきながらホームインしたものだ。イタリアから帰任直後の最初の試合では、いきなり3安打の猛打賞。また、8人しか集まらず試合不成立となるかと思われた時、子連れで観戦に来て、バミューダズを救ったこともある。とにかく、いざという時、頼りになる貴重なベテラン・バッターである。

居山由彦選手（79年入団）主に一塁、二塁、

最近では「家庭」を守ることに熱心。

知る人ぞ知るバミューダズの芸能部長。彼の戦績はグラウンド上の活躍よりも宴会における活躍の方が目を見はるものがある。ホームベースを座布団にかえ、バットに見立てた扇子を一振り、二振りすれば、次から次に飛び出すのは、逆転満塁ホームランならぬ爆笑講談の連続技。彼の妙技を見たばかりにバミューダズのとりこになったファンは数えきれない。さて、本業の野球は、86年は家庭面での活躍（結婚）が影響したためか、かつての面影が感じられなかったのが残念であった。今後のはなばなしい活躍を期待しよう。京子さん、応援をよろしく。

内山秀敏選手（創設メンバー）外野手・二塁手

バ軍の発起人の一人であり、広報渉外担当としてバ軍の発展に長年貢献している。特にバミューダタイムズが不休で200回以上発刊され、その部数を着々と伸ばしているのは、内山氏の努力の賜物。グラウンドでは、ラグビーストッキングで走る華かな姿と記録的な高目のボールを叩くライトヒッティングが光る。100試合出場場の栄誉を達成し、名球会の会員となっている。

榎並 隆選手（79年入団）捕手・投手

新潟商業でレギュラー、甲子園の一步手前まで行った本格派。本職は外野だが、強肩を生かした投手もやり、バ軍には好守強打の大型捕手として入団。バ軍がパワー・アップして草野球のメジャーとなるのに大いに貢献した。特に二塁への送球の速さと正確さは相手チームにとってたいへんな脅威で、味方投手を大いに盛り立てた。

80年MVPなど4シーズン暴れまくり、その後は郷理の新潟にUターン。NECの社員として現地の草野球興隆に尽している。バ軍との縁はその後継ぎ、佐久の合宿には、都合がつけば新潟から飛んで来てくれる。（84年には佐久のチームを相手に投げたが惜敗した）

奥 昭敏選手（83年入団）三塁手

ここ一番の時にでっかいホームランを飛ばす非常に頼りになる選手である。守備面ではバ軍特有のイレギュラーバウンド多発ゾーン（投手がくせダメばかり投げるので当たり損ね打球が多い）を堅実に守る名三塁手でもある。さらに、ファンサービス企画やバ軍合宿では強力なリーダーシップを発揮し、ついつい軟弱に走る傾向にある選手達をバッチシまとめあげることのできる奥選手への信頼は選手のみならず、女性ファンの間でも大変厚い。

大橋洋行選手（80年入団）

三塁手・捕手・外野手・投手

81年・412, 82年・500, 84年・361。いかに大橋選手が打ちまくったかがよくわかる。入団した80年から5シーズン、首位打者賞（82年）を頂点にして、常にベストテンの4位以上に顔を出し、86年までのバ軍総合打撃成績で、.361。堂々一位に輝いている。

好守豪打、バ軍が草野球のメジャーとなるのに大いに貢献した一人である。84年シーズンの終盤、首位打者争いの途中で米国勤務を命ぜられ、国民栄誉賞を手にもニューヨークへと旅立った。

バミューダズの多角化経営の一翼を担い、テニス・ツアーにも手腕を発揮、さらには、ファンクラブの中から現夫人を見出した、ネアカで幸せな男である。カムバックが待ち望まれる選手の一人である。

金子 治選手（77年入団） 投手・外野手

バミューダズの好敵手、レコーズの主力選手でありながらバミューダズにも参加する、これまた野球狂のひとりである。唯一の左投手で、打者を翻弄する投球術は見事。スリークォーターからの速球と、大きな落差のカーブは、敵に回したときは脅威となってバミューダズ打者の前に大きく立ちはだかる。できることなら、バミューダズに本格的に移籍してもらいたい。敵にしたいくない投手である。

来季はぜひとも主力投手のひとりとして、バミューダズのユニフォームの方がレコーズのユニフォームよりも似合うようになり、大活躍してほしい。

金子克之選手（85年入団） 捕手・外野手

試合では宮嶋選手から得た安打製造バットで打ちまくり、塁に出れば「走る？ ころがる重戦車」となり、宴会では長年バ軍で「芸能家」生活を送っている「エンドレス藤本」、「デーモン居山」に続く「第3の男」として、その多才な芸で多くのバ軍ファンを魅了し、早くも「真打ち」の呼び名も高い。「打てる、走れる、守れる、そして笑わせる」の四拍子そろった貴重な選手。グラウンド以外での活躍を大いに期待されている。

北野博基選手（84年入団） 遊撃手

まず打撃面では、急造左バッターであるにもかかわらず、持ち前の器用さで長打は出るし、流し打ちはマスターするし、四球は多いし、貴重な1番打者。守備面では、身の軽さ、肩の強さでショートの定位置を確保。それだけでは物足りず、バ軍独身会の横綱にまで一気に出世してしまった？ またファンクラブ、レジャー企画、財務長官等を数多く担当し、その卓越した才能を全てバ軍に捧げてしまったバ軍の『走る居無妻（イナズマ）』

小林 剛選手（77年入団） 外野手・内野手

あの小林がシンガポールの星となってから早くも四年の歳月が流れた。現地では彼は、社長となり数十人の部下を指揮すること。バ軍の大先輩とも知らずに納期を遅らせ、彼から大目玉をもらった海外営業の若手選手もいるそう。

77年の新人王。翌年の開幕戦に3三振をしてからツキに見放され、カタメ打ちと三振とをくり返していたが、なによりも彼の野球に対する熱狂的なとりくみ方はすばらしかった。カムバックが大いに期待される。

坂本裕司選手(86年入団)

内野手

本年度、海外事業本部に入社したフレッシュマン。入社と同時に、奥選手の誘惑を受け、バ軍に入団したラッキーボーイ。シュアなバッティング、堅実な守備、鋭い足、端正なマスクと4拍子揃った、これからの有望新人の一人。若さの魅力で87年度のファンクラブ・レジャー企画担当へと大抜擢され、今後のバミューダズを引っ張っていくこと請合い。活躍が大いに期待される。

渋谷和明選手(82年入団)

内野手・投手・外野手

本来は内野手だが、2年前に突然トラバースしてファイヤマンに変身、オーシャンリーグ2度目の優勝に大いに貢献した。また、ファンクラブ育成の中心人物として野球のみならず、テニス、スキーでも大活躍、今日のバ軍の興行的成功をもたらした。当れば大きい長打力が魅力の中軸打者であると同時に、今後の投手陣の鍵を握る男。86年に引越して、公私ともに心機一転、87年の大いなるホープである。

重野和夫選手(84年入団)

投手・内野手

別のチーム(レコーズ)のエースとして活躍している。そのため、出場試合数は少いものの、85年に新人王に選ばれ将来が期待できる選手である。「カットビ重野」と呼ばれ、マイカーを飛ばし野球場に現われる。バネがあり、スタミナは抜群である。しかし力み過ぎて突然コントロールが乱れることがあり、投手起用が難しい選手だ。打撃はパワーで長打を放つ。自覚があればMVPがとれる逸材。

鈴木満夫選手(81年入団)

外野手・投手

入団した年に4割以上の高打率で新人王を獲得。翌82年には投手として6勝無敗と最優秀投手賞を取った。その後、私生活多忙とともに肩の力が劣え、往時の横から粘り強く投げられるカーブピッチングが見られなくなった。品川区営のグラウンド予約を担当し、チームの試合数確保に貢献している。酒豪であるが、豪放さがグラウンドで見られることが期待されている。

高垣浩一選手(86年入団)

内野手・投手

かつては対戦相手だった強力選手をスカウトしてバ軍に入団させるというバ軍戦略で得た貴重な新人だ。北海道で月の輪熊やキタキツネを相手に遊んでいた野球大好き少年がそのまま大きくなってしまったみたいで、大きくてくりくりした目がかわいい。今までの骨太なバ軍選手にはない優しくて柔らかな雰囲気を持っている。今でもまだ成長期のどまんなかにいるという若さがうらやましい。

滝川貞夫選手(79年入団)

二塁手・遊撃手

数えきれない個性派選手をかかえるバミューダスにおいて、そのトップを争う選手。長髪の上に野球帽をのせ、サングラスをかけて登場する姿は、アニメから飛び出てきた主人公といえる。かつては、大崎工場に本拠をおいている「バリオ」の主力選手だったが、バミューダズの魅力に耐えきれず移籍してきた選手である。堅実な内野守備はチームメイトに安心感を与える。厚木勤務のため試合参加の機会が少ないものの、内に秘めた闘志は感服に値する。見せる野球を知っている貴重な存在である。

竹内敏博選手(86年入団) 内野手・投手

入団時にはその容貌、体型から『第2の大橋選手』などとさわがれ、その『長打力』を売り物にバ軍の看板スターとなるはずであったが、あの『速い一塁ベース』事件(一塁ベースへ向かう途中で足の肉離れを起してしまい、途中から土の上をころがり、泳いで一塁に到達した事件)で一躍有名人となってしまう、今度「いつ」「どこで」「どんな泳法を」を見せてもらえるか?、多くのバ軍ファンは大いに期待している。

86年終盤、投手に起用されいきなり2勝をあげ新人王。今後の成長が楽しみな選手だ。

谷川治仁選手(86年入団) 外野手・内野手

86年10月の佐久合宿に参加し、その場で入団を決意したニューフェイスである。学生時代に野球部に所属していただけに野球センスが身についている。カバープレーを見ても理論通りに動ける選手なので、今後の飛躍が期待される。課題はバッティングにあるとみる。87年からの本格始動で、チームの若頭として大きく育て欲しい。

徳光 始選手(80年入団) 捕手・外野手

チーム随一の強肩の持主である。当たれば飛ぶホームランバッター。九州六大学で硬式野球を経験し、今だに打法が硬式流。そのためか打率にムラがある。才能は素晴らしいものを持っているだけに、確実性の高い打撃、捕手としての捕球、送球技術が課題である。

私生活では86年SONYを退社しIBMに移籍し、心機一転燃えている。女性ファンも多いが、酔態を見られては逃げられている。

永嶋 仁選手(83年入団) 外野手

総合レジャークラブ化しつつあるバ軍のなかで永嶋選手は本流を守る硬派の存在である。女の子と遊びたいとかみんな酒を飲んで騒ぎたいとかの邪心を全く感じさせないパパさんプレイヤーである。外野の守備は鉄壁、ダイヤモンド・グラブ賞(84年)、ゴールデン・グラブ賞(86年)を受賞している。また、ルールについての知識は奥深く、審判を行なう時の判定の適確さは一流の域に達している。時々かわいなお嬢ちゃんを連れてこられるが、適令期を過ぎつつある女性ファンにとっては絶好の子守りの予備トレーニングの教材となっており、バミューダズベンチはなごやかな空気に包まれる。

野村尚史選手(78年入団) 内野手

78年の新人王。しかし彼が我々の記憶に新しいのは「マンモスのおにぎり」や「新日鉄のバレー部」などの宴会芸。藤本、居山両選手の入団前のバ軍の宴会を大いに盛り上げ初代芸能部長であったと言っても過言ではない。また彼はファンクラブの女性のハートを射止めた栄えある第二号選手(第一号は加藤千武選手)としても記憶に新しい。

アイスホッケーの選手でもあり、プレーはたいへん俊敏。82年後半より米国勤務となり長い時間がたつが、心身の鍛錬にぬかりはないと見る。カムバックが待たれる。

韓 研熙選手（83年入団）

外野手

活躍の期間は短かったが、パンチのある打撃は効果的な長打を生んだ。

85年春、みごとにスキー・ツアーの幹事を務めたのを最後にソニー・ドイツに赴任、当地での草野球の普及に努めている。カムバックの楽しみな選手である。

Paul Fraker 選手（79年入団）

三塁手

Welcome Back Paul /

かつての強肩をひっさげて再び登場した愛すべき外人選手。三振や失策のときに見せる寂しげな様子にある意味での心意気を感じる。ゴロを捕球したあとの一塁送球は絶品。大リーガー並みのスナップで矢のような送球を見せてくれる。またの名をバミューダスの英語教師という。彼のおかげで我軍の選手は英語が上手くなった。ストライク、ボール、ヒット・エンド・ラン等々。

松本哲郎選手（創設メンバー）

内野手

バ軍創設メンバーの1人。最近では仕事に追われ、なかなかグラウンドには姿を見せなくなったが、そのファイトあふれるプレーにはバミューダス魂を感じる。76年にMVPを獲得しているだけあって、そのバッティングは年をとった今でもシャープであるが、走塁に少々支障が出てきているようだ。還暦野球を目標に再起が望まれる。フロント入りにはまだ早い。

松本浩昭選手（83年入団）

外野手

入団4年目にして、打撃、守備とも目ざましい向上を遂げた。大柄な身体つきからは想像しにくいのが、意外と器用なプレーができる。課題は、もっと欲を出し、タイトルを狙うことであ

る。その為には、試合出場回数をもっと増やすことだ。但馬人としての人の善さに貪欲さと粘りが備われば、次代のチームの中核者になって貰える。ランニング、素振りを絶やさぬよう奮起して欲しい。

宮嶋功明選手（83年入団）

投手・外野手

なぜか彼が打席に向うときには、必ず塁上に走者がいて、しかも必ず期待に応えてくれる好打者である。速球投手としての力量も傑出したものがあり、若きエースとしての期待が大きい。大阪に転勤のため今季は数試合しか出場できなかったが、オーシャンリーグの決勝トーナメントのため、はるばる駆け参じた意気込みは、只物ではない。球団の誇る選手のひとりである。

また、アニメに打ち込む情熱は並の人間にはとても想像できない。一晩中語らせてもまだまだ底をつかないアニメへの情熱。「野球狂の詩」とともに「アニメ狂の詩」？の主人公が十分務まる。

早く東京へ戻ってこいよ。

樋口謙三選手（79年入団）

外野手

巨腹を利して、必ず死球で出塁するバ軍の秘密兵器。特技を生かすため、さらに肉をつけて小錦に近くなったのに、出場回数が減ったのが惜しまれる。柔道出身で寝技が得意。

横野 滋選手（82年入団）

内野手

シュアなバッティングと華麗な内野守備。バ軍には珍らしい技術系の選手。業務多忙のため、出場機会に恵まれないのが惜しい。

口ひげにサングラスがよく似合う。

吉田 洋選手（８３年入団）

外野手

通称チンさん。チーム唯一の中国語の名人（麻雀のことではない）。２年前に中国政府の依頼を受け、中国本土での野球普及のため、半年間北京に留学したという野球外交官。外野の守備には定評がある（８４年度新人王）。ただ、帰国後は、そのバットがやや湿りがちで、芸とともに、これからの磨きに期待がかかる。特に、８７年度、ファンクラブ担当という重責が待っているのです、正念場である。

若泉浩司選手（８６年入団）

外野手

１９８６年度の新人で筋骨隆々のごっつい体躯からはライト線ギリギリの長打がボンボン飛びだすのだ。そんな若泉選手が隠れた才能を佐久の合宿で発揮した。彼は、なんとエレクトーンの絶対音を聞き分けるという特技を持っているのみならず、カラオケ歌手ボレロ徳光の美声にバッチリ伴奏できるという、バミューダズ合唱団にはなくてはならない存在となってしまったのだ。これからが楽しみなんだ。

ファンクラブ紹介

ここ数年のバミューダズは一大転機を迎えたと言える。通算１００勝、２００試合達成、さらに創立１０周年を迎えるにあたって女性ファンの応援がふえたことである。なかには、佐久合宿に参加して、選手と一緒にバットを振り回す強者もいて非常に心強い。正選手としてユニフォームを着る日も、そう遠くないと思えるこの頃である。

K嬢－オーシャンリーグの決勝戦や合宿など、節目となるときには必ず応援に来てくれる。合宿において見せてくれたシュアなバッティングには好打者の素質がキラリと光る。来季は選手に転向か？

S1嬢－一年間を通して応援に来てくれる貴重な存在。野球も好きらしいが、試合後に催される第２試合（飲み会？）における活躍が素晴らしい。

S2嬢－最近バミューダズの魅力にとりつかれたようで週末が近づくとうれしく出てくるらしい。いつもは俗界から遠く離れた役員室にいたため、バミューダズの試合観戦はストレス解消に効果があるらしい。バミューダズはここでも人の役に立っている。

S3嬢－とにかく元気がある。少しでもミスをすればベンチからメガホン越しに叱咤激励の声がかかる。また夜の宴会においてもファインプレーの連続。その元気を高く評価して、選手の手綱を引き締める鬼マネージャーのポストを差し上げたい。

M嬢－すっかりバミューダズの一員となった感がある。試合ではいつもベンチに入っていて応援をしてくれているが、そのうち次第に、ある選手が連れてきた子供達の遊び相手となる。地球は一家、バミューダズはみなファミリーの一側面をここに見た。

居山夫人－たまたま居山選手を夫にもったばかりに芸術家（ピアニスト）から芸能人の仲間入りをしてしまった。人生何が転機となるかわからない。しかし本性は、居山選手に匹敵する程のひょうきん族のようで、これからのバミューダズでの活躍が期待される。



各年度個人記録

打撃成績 (1983)

	選手名	打率	試	席	数	得	安	点	盗	犠	球	振	残	本	三	二
1	建部	.290	12	39	31	8	9	9	4	0	8	3	6	2	2	2
2	居山	.275	16	49	40	13	11	3	16	0	9	5	11	1	0	0
3	大橋	.268	17	51	41	10	11	9	13	1	9	2	10	1	2	2
4	宮嶋	.267	11	33	30	8	8	7	5	0	3	2	4	0	1	2
5	藤本	.256	18	53	43	14	11	5	25	0	10	5	8	2	0	0
6	金子(尚)	.250	14	38	36	3	9	6	7	0	2	6	6	1	1	1
7	塩瀬	.2200	21	68	50	15	11	9	12	2	16	12	16	1	1	3
8	奥	.2195	14	47	41	10	9	4	19	0	6	5	9	1	0	0
9	徳光	.213	16	58	47	14	10	11	13	2	9	3	14	1	1	3
10	渋谷	.205	15	50	44	10	9	9	11	2	4	4	8	1	1	3
11	鈴木	.196	20	56	51	6	10	8	8	0	5	4	11	0	1	3
12	内山	.176	16	38	34	5	6	9	3	3	1	5	5	0	0	1
	滝川	.429	6	14	14	4	6	2	5	0	0	0	3	0	0	0
	横野	.333	8	22	18	6	6	4	5	0	4	3	5	1	0	0
	韓	.294	8	21	17	2	5	6	5	0	4	5	6	1	1	0
	永嶋	.250	8	21	20	3	5	1	5	0	1	2	7	0	0	2
	松本(尚)	.214	8	15	14	2	3	2	1	1	0	1	3	0	0	1
	樋口	.200	4	11	10	1	2	2	0	0	1	3	3	0	0	1
	榎並	.133	5	17	15	2	2	3	5	0	2	1	3	0	0	0
	吉田	.118	10	18	17	1	2	0	2	0	1	4	3	0	0	0
	安藤	.111	5	11	9	0	1	0	1	0	2	1	1	0	0	0
	(以下略)															
	チーム計	.226	25	780	665	142	150	110	171	11	104	88	152	13	11	24

投手成績 (1983)

	投手名	試	勝	負	S	回数	打者	振	安	球	失	責	防御率
	塩瀬	13	8	2	1	68	274	56	42	31	18	9	0.93
	鈴木	9	3	5	0	40 $\frac{2}{3}$	188	27	31	27	26	14	2.41
	建部	8	2	2	0	38	167	35	30	15	26	15	2.76
	宮嶋	3	1	1	0	18	82	8	15	13	8	5	1.94
	チーム計	25	14	10	1	164 $\frac{2}{3}$	711	126	118	86	78	43	1.83

打 撃 成 績 (1 9 8 4)

選手名	打 率	試	席	数	得	安	点	盗	犠	球	振	残	本	三	二
1 宮 嶋	.422	19	60	45	26	19	19	15	1	14	3	10	4	3	4
2 大 橋	.361	11	39	36	14	13	17	12	0	3	3	4	1	1	4
3 吉 田	.320	12	28	25	3	8	4	4	0	3	4	5	0	0	2
4 建 部	.318	12	38	22	9	7	9	3	1	15	2	14	2	1	1
5 渋谷	.260	22	60	50	17	13	15	12	0	10	5	12	3	1	4
6 永 嶋	.255	21	65	55	11	14	12	18	0	10	1	13	1	1	4
7 居 山	.231	15	49	39	12	9	5	10	1	9	5	4	0	1	2
7 藤 本	.231	18	50	39	9	9	4	19	0	11	5	11	0	1	2
9 内 山	.227	10	26	22	5	5	5	2	1	3	6	4	0	2	0
10 鈴 木	.216	15	42	37	10	8	6	7	1	4	2	6	0	1	2
11 北 野	.200	18	45	35	11	7	7	11	1	9	6	8	1	0	1
12 徳 光	.176	22	79	51	25	9	13	28	0	28	4	20	1	1	4
13 金子(治)	.147	12	38	34	3	5	3	3	0	4	7	6	0	0	1
14 松本(治)	.120	12	27	25	5	3	2	1	1	1	9	1	0	0	0
15 塩 瀬	.107	18	49	28	10	3	5	10	2	19	9	11	0	2	1
安 藤	.429	3	10	7	3	3	2	2	0	3	0	3	0	0	1
重 野	.400	4	5	5	1	2	1	1	0	0	0	2	0	0	0
滝 川	.300	5	11	10	0	3	0	3	0	1	1	4	0	0	0
奥	.167	3	7	6	2	1	1	1	0	1	1	1	0	0	1
吉 原	.167	7	13	12	1	2	2	2	0	1	2	2	0	0	1
中 村	.143	4	7	7	0	1	1	1	0	0	1	3	0	0	0
樋 口	.000	7	18	12	2	0	0	0	0	6	7	3	0	0	0
(以下略)															
チーム計	.241	25	785	618	184	149	138	167	10	157	85	149	14	16	35

投 手 成 績 (1 9 8 4)

投手名	試	勝	負	S	回数	打者	振	安	球	失	責	防御率
建 部	7	6	0	0	41	150	29	16	8	6	4	0.68
宮 嶋	9	5	4	0	52 $\frac{1}{3}$	215	56	32	28	22	11	1.47
塩 瀬	9	5	2	0	46	184	42	25	16	18	10	1.52
鈴 木	4	1	0	0	7 $\frac{2}{3}$	31	8	4	4	1	1	0.91
榎 並	1	0	1	0	6	32	3	6	5	8	3	3.50
渋谷	1	0	0	0	2	10	3	1	2	0	0	0.00
金子(治)	1	0	0	0	1	8	1	2	0	4	2	14.00
大 橋	1	0	0	0	1	5	1	2	0	0	0	0.00
藤 本	1	0	0	0	1	3	2	0	0	0	0	0.00
チーム計	25	17	7	0	158	638	145	88	63	59	31	1.37

打 撃 成 績 (1985)

選手名	打 率	試	席	数	得	安	点	盗	犠	球	振	残	本	三	二
1 宮 嶋	.366	17	52	41	13	15	8	6	0	11	4	13	0	0	2
2 重 野	.364	8	27	22	7	8	6	7	0	5	1	6	1	1	3
3 奥	.325	17	55	40	12	13	12	13	1	14	4	13	2	3	2
4 建 部	.308	12	33	26	7	8	7	4	1	6	2	8	2	1	1
5 居 山	.278	14	44	36	9	10	2	6	2	6	3	9	0	1	1
6 德 光	.275	21	63	51	14	14	13	21	0	12	6	15	1	2	7
7 藤 本	.263	8	24	19	4	5	4	9	0	5	3	5	0	1	2
8 内 山	.250	12	27	24	4	6	0	1	0	3	4	4	0	0	2
9 塩 瀬	.236	22	52	38	10	9	4	6	0	14	11	15	1	2	2
10 吉 田	.217	9	25	23	3	5	5	4	0	2	2	5	0	0	2
11 金子(克)	.214	13	30	28	4	6	0	6	0	2	2	7	0	1	0
12 永 嶋	.200	20	58	45	8	9	6	13	0	13	3	18	0	0	5
12 北 野	.200	17	55	45	7	9	2	16	1	9	4	11	0	0	1
14 鈴 木	.171	15	40	35	3	6	8	5	2	3	4	5	0	0	1
15 渋谷	.061	21	55	49	5	3	3	5	3	3	10	4	0	0	2
飯 田	.333	3	10	9	1	3	2	2	1	0	1	3	0	0	0
金子(裕)	.188	6	19	16	5	3	2	3	0	3	1	3	0	0	0
松本(伸)	.158	9	20	19	2	3	3	2	0	1	1	6	0	0	1
西 村	.000	4	10	7	3	0	0	2	0	3	3	2	0	0	0
鐘 江	.000	3	6	5	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0
(以下略)															
チーム計	.227	25	738	609	125	138	87	144	11	118	75	158	7	12	34

投 手 成 績 (1985)

投手名	試	勝	負	S	回数	打者	振	安	球	失	責	防御率
塩 瀬	11	5	1	0	55	231	51	28	23	15	7	0.89
宮 嶋	6	3	1	0	27	96	22	11	8	2	2	0.52
建 部	7	2	1	1	25 $\frac{1}{3}$	103	28	19	8	12	9	2.49
渋谷	4	2	0	0	15 $\frac{1}{3}$	64	16	5	11	3	1	0.46
重 野	5	2	1	1	17 $\frac{2}{3}$	78	18	6	14	9	7	2.77
金子(裕)	2	2	0	0	8	32	10	5	0	4	0	0.00
鈴 木	1	1	0	0	4	18	5	1	5	3	3	5.25
藤 本	1	0	0	0	3	12	4	1	2	1	1	2.33
永 嶋	1	0	0	0	2	8	1	2	0	0	0	0.00
チーム計	25	17	4	2	157 $\frac{1}{3}$	642	155	78	71	49	30	1.34

打 撃 成 績 (1 9 8 6)

選手名	打 率	試	席 数	得 安 点	盗 塁	球 振	残	本 三 二
1 重 野	.452	13	37 31	14 14	12 15	2 4	5 8	2 0 5
2 渋谷	.333	27	75 63	22 21	20 15	4 8	6 14	3 4 4
3 塩 瀬	.327	27	60 49	12 16	6 8	2 9	12 11	1 2 6
4 徳 光	.323	27	79 65	27 21	16 22	1 13	5 15	5 1 5
5 永 嶋	.286	20	57 49	9 14	8 17	1 7	2 12	0 0 5
6 北 野	.277	22	69 47	21 13	6 25	4 18	9 12	0 2 4
7 奥	.234	23	59 47	12 11	8 20	2 10	6 9	1 1 2
8 金子(完)	.225	19	43 40	6 9	8 7	1 2	12 6	1 0 2
(以上が規定打席(35)以上)								
松本(浩)	.391	12	29 23	8 9	9 3	4 2	2 6	0 0 1
竹 内	.250	14	32 24	7 6	7 9	1 7	2 8	0 0 0
吉 田	.200	15	32 30	7 6	5 5	0 2	12 5	1 1 2
藤 本	.185	11	33 27	9 5	5 12	0 6	3 5	0 0 3
内 山	.105	11	20 19	1 2	3 2	0 1	2 2	0 0 0
居 山	.091	12	29 22	3 2	2 3	1 6	4 5	0 0 0
Paul Fraker	.062	11	17 16	2 1	1 1	1 0	9 0	0 0 0
(以上が10試合以上出場者)								
宮 嶋	.333	6	18 12	6 4	6 11	2 4	2 5	0 0 2
若 泉	.333	9	15 12	2 4	2 2	0 3	1 3	0 0 2
飯 田	.300	8	23 20	5 6	4 4	0 3	1 5	0 0 0
金子(裕)	.285	6	16 14	1 4	5 4	1 1	3 5	0 0 2
鈴 木	.267	8	18 15	2 4	2 5	0 3	2 5	0 0 2
高 垣	.250	7	10 8	4 2	0 6	0 2	2 1	0 0 0
横 山	.222	6	10 9	3 2	0 3	0 1	5 0	0 0 0
坂 本	.083	9	17 12	2 1	3 3	1 4	6 3	0 1 0
滝 川	.083	5	15 12	4 1	1 3	1 2	1 1	0 0 0
(以下略)								
チー ム 計	.265	29	836 686	191 182	140 208	29 121	116 152	14 13 47

投 手 成 績 (1 9 8 6)

投手名	試	勝 負 S	回数	打 者	振 安	球 失 責	防御率
塩 瀬	17	9 2 0	65 $\frac{2}{3}$	284	61 40	36 26 15	1.60
渋谷	12	3 2 1	33 $\frac{2}{3}$	152	31 20	22 16 8	1.66
重 野	8	3 1 2	27 $\frac{2}{3}$	117	35 16	16 11 8	2.02
宮 嶋	5	3 0 0	15	62	18 8	5 1 0	0.00
竹 内	2	2 0 0	11	46	9 7	8 4 2	1.27
建 部	2	1 0 1	8	30	11 4	2 1 0	0.00
金子(裕)	3	0 1 1	8 $\frac{2}{3}$	41	16 10	1 7 4	3.23
北 野	4	0 0 1	6	31	7 3	10 5 2	2.33
(以下略)							
チー ム 計	29	21 6 6	178	778	193 110	105 76 41	1.61

個人総合打撃成績 (1976年～1986年)

	選手名	打率	試合	打席	打数	得点	安打	打点	盗塁	犠打	四死球	三振	残塁	本塁打	長打	二打
1	大 橋	.361	68	219	191	61	69	51	64	1	27	6	48	8	7	14
2	宮 嶋	.359	53	163	128	53	46	40	47	3	32	11	32	4	4	10
3	榎 並	.3129	53	196	163	52	51	39	47	2	31	14	43	5	4	8
4	建 部	.3125	112	365	272	80	85	74	48	6	87	14	102	10	14	16
5	奥	.254	57	168	134	36	34	25	53	3	31	16	32	4	4	5
6	永 嶋	.249	69	201	169	31	42	27	53	1	31	8	50	1	1	16
7	徳 光	.2418	119	393	306	109	74	75	107	4	83	32	85	13	6	26
8	渋谷	.2417	96	275	240	66	58	56	49	9	26	27	47	7	8	17
9	飯 田	.240	37	121	100	22	24	19	18	2	19	15	27	2	1	5
10	藤 本	.235	96	312	255	72	60	39	100	0	57	24	68	5	6	12
11	安 藤	.234	62	187	167	27	39	27	25	1	19	26	27	4	1	8
12	塩 瀬	.232	181	534	414	106	96	80	78	9	111	115	113	16	9	31
13	居 山	.230	113	366	278	73	64	30	81	4	84	44	75	1	3	8
14	北 野	.228	57	169	127	39	29	15	52	6	36	19	31	1	2	6
15	鈴 木	.223	86	250	220	41	49	36	41	3	27	19	43	0	2	10
16	吉 田	.221	46	103	95	14	21	14	15	0	8	22	18	1	1	6
17	金子(裕)	.206	91	265	238	33	49	34	37	2	25	56	47	1	1	8
18	小 林	.193	62	194	165	27	32	30	28	1	28	47	35	3	2	10
19	松本(哲)	.180	61	205	172	22	31	13	31	1	32	27	49	1	2	6
20	内 山	.146	114	268	239	23	35	31	14	4	25	50	41	0	5	4
21	樋 口	.069	54	115	87	12	6	4	0	0	28	45	20	0	0	1
(以上は100打席以上出場者)																
	野村(茂)	.467	7	25	15	8	7	3	3	0	10	1	9	0	0	1
	重 野	.418	25	69	58	22	24	19	23	2	9	6	16	3	1	8
	横 野	.300	13	36	30	8	9	6	7	0	6	5	8	1	0	0
	韓	.286	10	26	21	3	6	8	5	1	4	5	6	1	1	0
	古 川	.283	21	56	53	12	15	5	10	0	3	5	9	0	1	1
	滝 川	.279	26	78	61	18	17	9	18	2	15	5	18	0	1	1
	野村(尚)	.273	29	88	66	19	18	14	17	0	22	9	21	2	2	2
	竹 内	.250	14	32	24	7	6	7	9	1	7	2	8	0	0	0
	植 山	.238	7	25	21	1	5	5	2	1	3	5	6	0	0	1
	松本(健)	.222	41	91	81	17	18	16	7	6	4	13	16	0	0	3
	金子(克)	.220	32	73	68	10	15	8	13	1	4	14	13	1	1	2
	PaulFraker	.220	23	60	50	7	11	8	5	1	9	19	14	0	3	2
	浅井田	.218	23	67	55	7	12	6	10	0	12	14	21	0	0	3
	神 原	.212	11	44	33	9	7	2	8	0	11	5	7	0	0	2

チー△総合打撃成績 (1976年～1986年)

年 度	試 合	打 席	打 数	得 点	安 打	打 点	盗 塁	犠 打	四 死 球	三 振	残 塁	打 率	長 本	打 三	打 二
1976	3	89	73	8	15	8	6	0	16	8	21	.205	1	0	4
1977	8	256	215	45	46	36	37	1	40	49	53	.214	5	4	10
1978	15	443	363	59	64	41	95	2	78	100	88	.176	3	6	10
1979	17	560	440	101	110	83	72	5	115	105	133	.250	9	7	20
1980	24	769	632	132	137	92	123	4	133	112	169	.217	7	7	31
1981	19	645	541	131	139	94	110	3	101	100	136	.257	11	10	26
1982	22	706	597	148	145	111	111	4	105	89	130	.243	16	14	27
1983	25	780	665	142	150	110	171	11	104	88	152	.226	13	11	24
1984	25	783	616	184	149	138	167	10	157	85	149	.242	14	16	35
1985	25	738	609	125	138	87	144	11	118	75	158	.227	7	12	34
1986	29	836	686	191	182	140	208	29	121	116	152	.265	14	13	47
総 計	212	6605	5437	1266	1275	940	1244	80	1088	927	1342	.235	100	100	268

チー△総合投手成績 (1976年～1986年)

年 度	試 合	回 数	打 者	奪 三 振	被 安 打	四 死 球	失 点	自 責 点	防 御 率	勝 利	敗 戦	セ ー ブ	引 分
1976	3	20	78	27	5	7	5	2	0.70	2	0	0	1
1977	8	52	238	55	54	22	50	32	4.31	4	4	0	0
1978	15	100	440	109	71	59	56	35	2.45	7	4	0	4
1979	17	108 $\frac{2}{3}$	490	122	104	48	77	52	3.35	10	6	0	1
1980	24	160 $\frac{1}{3}$	690	145	93	108	62	36	1.57	17	4	4	3
1981	19	123 $\frac{1}{3}$	560	135	107	61	95	59	3.35	10	7	0	2
1982	22	147	635	142	110	77	88	58	2.76	12	6	2	4
1983	25	164 $\frac{2}{3}$	711	126	118	86	78	43	1.83	14	10	1	1
1984	25	158	638	145	97	63	59	31	1.37	17	7	0	1
1985	25	157 $\frac{1}{3}$	642	155	78	71	49	30	1.33	17	4	0	4
1986	29	178	778	193	110	105	76	41	1.61	21	6	6	2
総 計	212	1369 $\frac{1}{3}$	5900	1354	947	707	695	419	2.14	131	58	13	23

通算 212戦 131勝 58敗 23引分 (他に 3不戦勝・1不戦敗)

(勝率 .778, 総得点 1266, 総失点 695)

あ と が き

第一回の球団誌発行より四シーズンで、早くも第二回の出版を、しかも10周年および200試合達成記念として行なうことができるのは、バミューダズ創設者のひとりとしてこの上ない喜びである。

しかもこの四シーズンは、それまでのバ軍第一次黄金時代からそのまま第二次黄金時代に突入したといって過言ではない。毎シーズン常に25試合以上を行ない、いくつかの大会・リーグで好成績をあげ、若手選手の大量入団による増強・若返りとベテランのがんばり、スキーツアー／春のキャンプ／テニス・ツアー／佐久遠征・合宿／大納会という五大イベントの確立、営業努力による女性ファンの大動員、などその活動内容の充実ぶりは、まさに「遊びに手を抜かない」というバ軍の尊称に値するものである。

出版のため、過去11シーズンの記録を整理し、訂正を行なった。個人記録に執念を燃やすバミューダズ戦士のため、是非とも必要だったからである。尚、今回の表紙は、ここ数年のあいだに隠れていた才能をあらわして大変身をとげつつある徳光選手の手によるものであることを明記しておく。

出版にあたってタイプ、写植から印刷・製本まで一貫してお世話になった日本現図社の皆様に、心よりお礼申し上げます。

87年シーズンの開幕まであとわずか一ヶ月、300試合達成へ向けて、熱狂草野球軍団、バミューダズの戦いはすでに始まっている。(U)

BERMUDAS no. 2

10周年／200試合達成記念

1987年2月発行

編集 10周年／200試合達成記念出版委員会

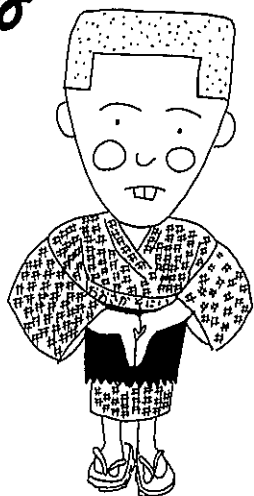
内山秀敏 塩瀬正明 藤本和彦
徳光 始 北野博基 渋谷和明
居山由彦 永嶋 仁

発行 熱狂草野球軍団 バミューダズ

印刷・製本 日本現図社



まいど



Hey!! Every Guys and Gals, Listen !!

